

『季刊 戦争責任研究』 総目次 創刊号～第91号

*以下、日本の戦争責任資料センターは資料センターと略した。

*原タイトルの漢数字を算用数字に改めたところがある。

創刊号(1993年秋季号)【特集＝「従軍慰安婦」問題を検証する】

創刊の辞	荒井信一
陸軍中央と「従軍慰安婦」政策—金原節三「陸軍省業務日誌摘録」を中心に	吉見義明
陸軍の慰安婦管理の一側面—「衛生サック」交付資料を手がかりに	林 博史
資料調査第一次発表	資料センター
随想百話二度めの夏	西野留美子
「従軍慰安婦」補償問題で、新たな報告書作成—国連人権委、一年以内に日本政府へ勧告	荒井信一
ドイツの戦後処理をめぐって(上) ドイツ現代史における賠償と補償	佐藤健生
フィリピンにおける元「従軍慰安婦」調査報告	長田由美
【資料編】 いわゆる従軍慰安婦問題について(第2次政府調査全文)	

第2号(1993年冬季号)【特集＝731部隊部隊の実相に迫る】

今、なぜ七三一を問わねばならないか	越田 稜
日本軍の細菌戦—明らかになった陸軍総がかりの実相	吉見義明・伊香俊哉
隠蔽と解明と—七三一部隊研究の歴史をたどって	宮崎 章
マレー・シンガポールの細菌戦部隊—北京の細菌戦部隊を含む日本軍秘密部隊の実態	高島伸欣
七三一部隊とは何か—部隊展実行委パンフが明かす七三一部隊の概要	
戦争・戦争責任を問う七三一部隊展を開催して	渡辺 登
東条首相、自ら本部を視察—元七三一隊員が証言する人体実験の戦慄	

【エッセー】 もう一つの春歌考	川田文字
ドイツの戦後処理をめぐって(中)「国民追悼日」の歴史的意味—二つの世界大戦と戦没者の追悼—	佐藤健生
オランダ、イギリス元捕虜、抑留者の日本政府に対する訴訟提起	新美 隆
フランシス・レイ「韓国の国際状況」—国際法からみた韓国保護条約無効論	(解説)海野福寿
【インフォメーションコーナー】 「七三一部隊」関連書籍リスト／戦後賠償・補償問題 文献・資料リスト	

第3号(1994年春季号)【特集＝侵略戦争にみる捕虜虐待・虐殺／突きつけられた「従軍慰安婦」問題】

戦時下の外国人の人権	内海愛子
捕虜問題の基礎的検討—連合軍捕虜の死亡率と虐待の背景—	小菅信子
人体実験に使用された連合軍捕虜—連合軍資料にみる捕虜虐待・虐殺の一側面—	田中利幸
エッセー戦争と性	早川紀代
「従軍慰安婦」問題日韓合同研究会の報告	林 博史
【資料】 オランダ女性慰安婦強制事件に関するバタビア臨時軍法会議判決	
(解説) 新美隆(訳) 安原桂子・横山伊徳	
各国慰安婦の戦後と現在—傷跡を引きずりながら生きた彼女らの戦後—	安原桂子
国会図書館所蔵の戦争体験記・部隊史調査について	資料センター
ドイツの戦後処理をめぐって(下) 戦後処理におけるドイツと日本—何が根本的に違うのか—	佐藤健生
国立・戦没者追悼平和祈念館(仮	

称)は必要か 田中伸尚
【資料】軍慰安所・軍慰安婦第1次集計表

第4号 (94年夏季号) 【特集 = 「従軍慰安婦」被害回復についての提言 / 侵略の傷跡 — 中国東北の現地調査から】

「従軍慰安婦」制度による犠牲者の被害回復についての提言 資料センター
旧関東軍第四 (十五) 国境守備隊虎頭要塞の日中共同調査 — 戦跡考古学研究の立場からの略報 菊池実・深沢敦仁

毒ガス戦の果てに — 旧日本軍が中国に遺棄した化学兵器 尾崎祈美子
シンガポールの日本軍慰安所 林 博史

【資料】日本占領下蘭領インドにおけるオランダ人女性に対する強制売春に関するオランダ政府調査報告 (解説) 吉見義明 (訳) 安原桂子
台湾マルク債券問題 小林英夫

「日本の戦後処理問題に関するピョンヤン国際シンポジウム」について 糟谷政和

永野発言に関して日本政府への要望 資料センター

【投稿】伊香氏の「侵略パート5」を見て」の囲み文に対する見解 森正孝・糟川良谷

第5号 (94年秋季号) 【特集 = 毒ガス・細菌戦の新資料 / 戦争体験記にみる「従軍慰安婦」】

日本軍はどのぐらい毒ガスを生産したか 吉見義明

細菌戦とネズミ生産 遠藤光司・関口竜一

国会図書館所蔵の戦争体験記・部隊史の第2次調査の報告 資料センター

【資料構成】戦争体験記・部隊史にみる「従軍慰安婦」 林 博史

南京大虐殺はどこまで明らかにされたのか 笠原十九司

国連の最近の議論と仲裁裁判所 — 「従軍慰安婦」問題解決のために 戸塚悦朗

【資料紹介】「従軍慰安婦」の送出国と朝鮮総督府 吉見義明

朝鮮民主主義人民共和国元「慰安婦」の被害報告 西野留美子

中国に残された韓国人「慰安婦」 奥村 哲
ある日本人「慰安婦」と永野発言 川田文字
マレー半島の住民虐殺記念碑紹介 (上) 清松愛砂

第6号 (94年冬季号) 【特集 = ドイツにみる戦争責任・戦後責任】

戦争責任・戦後責任にみるドイツと日本 望田幸男

ニュルンベルク裁判の再検 — 「人道に対する罪」を中心に 清水正義

ナチス・ドイツ関係史料公開の現状 — ベルリン・ドキュメント・センターを中心に 芝 健介

ドイツの歴史教育 黒田多美子

「忘れられた犠牲者」との「出会い」の旅 — ナチ時代の「安楽死」と断種・不妊手術 木畑和子

ヒトラー暗殺未遂事件 — 反ナチ抵抗運動と今日のドイツ 山下公子

ドイツ、戦争とナチズムの記念碑・記念館を考える① 南 守夫
ドイツの「過去の克服」 佐藤健生

富山県における「労務慰安婦」について 荻野富士夫

対談映画「シンドラーのリスト」をめぐって 斉藤哲・芝健介

オランダ人「慰安婦」 西野留美子

マレー半島の住民虐殺記念碑紹介 (下) 清松愛砂

【資料】ビルマ・マンダレーの慰安所規定 林 博史

【資料】「決戦兵器考案ニ関スル作戦上ノ要望」 伊香俊哉

レイテ湾上陸50周年記念式典参加記 中野 聡

第7号 (95年春季号) 【特集 = 外国にみる戦後処理問題 / 日本の朝鮮植民地支配】

イギリスの戦争と戦争責任意識 佐々木雄太
「記憶の義務」と「忘却の権利」

— フランスの戦後50周年と「占領期」 剣持久木

イタリアにおける戦後処理 高橋 進
朝鮮における皇民化政策 宮田節子
強制連行における企業責任 古庄 正

戦時下の朝鮮農民—離村を中心に
戦争責任をめぐる日米ギャップ
ドイツ、戦争とナチズムの記念
碑・記念館を考える②
エッセイ『ショア』を見ること
の意味
マレー半島東海岸の華人追悼碑
国境線、友人到此止歩—雲南
省・戦争の傷跡を辿って
【資料】主計将校と「従軍慰安婦」
— 中曽根首相も慰安所をつく
った
【資料】「森川部隊特種慰安業務
二関スル規定」
【資料】七三一部隊と戦犯免責
— 免責裏づける日本側「尋問
録」

樋口雄一
油井大三郎
南 守夫
石田靖夫
関口竜一
望月陸幸
資料センター
松野誠也
太田昌克

第8号 (95年夏季号) 【特集＝十五年戦争の諸相】

天皇の軍隊の特質—残虐行為
の歴史的背景
昭和天皇の戦争指導—情報集
中と作戦関与
アジア太平洋戦争の開戦手続き
財閥企業の戦争責任—アヘンと
毒ガス—三井物産と三井鉱山
中国民衆にとっての日中戦争
誰の死を忘れ誰の死をどう意味
づけるか
ホロコーストと現代史研究
石田勇治・永岑三千輝・矢野久
ドイツ、戦争とナチズムの記念
碑・記念館を考える③
シベリア抑留問題の現状と課題
戦没者刻名碑「平和の礎」が意
味するもの
国境線、友人到此歩—雲南省・
戦争の傷跡を辿って②
「私の謝罪電話」集計結果報告
「ICJ国際セミナー 1995年7
月2日—4日」のお知らせ

額 厚
山田 朗
岡部牧夫
坂本雅子
石島紀之
石田 雄
南 守夫
江口十四一
石原昌家
望月陸幸
資料センター

第9号 (95年秋季号) 【特集＝日本軍の捕虜政策／中国侵略と戦後補償】

近代日本の戦争—捕虜政策を中
心として
日中戦争における捕虜虐殺

神田文人
藤原 彰

兵士の陣中日記にみる南京大屠
殺—郷土部隊が捕えた捕虜約
二万の行方
アジア太平洋戦争期の捕虜政策
—陸軍中央と国際条規
【連続ゼミ】日本の中国侵略と
補償問題
【連続ゼミ】中国からの戦後補
償要求
【連続ゼミ】在米中国人の賠償
請求運動
戦後50年国際平和アピールの反
響 戦後50年国際平和アピール日本委員会
ドイツ、戦争とナチズムの記念
碑・記念館を考える④
国会図書館等所蔵の戦争体験
記・部隊史の第3次調査の報告
北京甲1855部隊の検証

小野賢二
永井 均
姫田光義
渡辺春巳
西村成雄
南 守夫
資料センター
西野留美子

第10号 (95年冬季号) 【特集＝戦後補償・賠償問題】

戦後補償裁判の現状と課題
日本の東南アジア賠償
中国国民政府の対日賠償政策
マレーシア、シンガポールの賠
償問題
ミクロネシアと日本終わらない
戦後—行われていない戦時賠償
治安維持法と国家賠償
【連続ゼミ】スミソニアン原爆
展論争から学ぶこと
元一六四四部隊員の証言—軍画
兵、石田甚太郎の体験から
「従軍慰安婦問題」—リンダ
・チャベス氏報告 (訳・解説) 荒井信一
海外における買売春の展開—
台湾を中心に
【資料紹介】アンダマン島の日
本海軍「慰安所利用内規」
【資料紹介】戦争認識をめぐる
国会論議①

藍谷邦雄
小林英夫
殷 燕軍
原 不二夫
荒川俊児
大日方純夫
袖井林二郎
水谷尚子
荒井信一
早川紀代
木村宏一郎
吉田 裕

第11号 (96年春季号) 【特集＝世界は戦後五〇年をどのように迎えたか】

「戦争責任否定派」の動向と論
理
崩せなかった二重基準の壁—

波田永実

アジアへの補償を求める市民運動から
ドイツの現在 — 戦後五〇年が過ぎて
戦後五〇年目の戦争認識—英国マスメディアの対日「戦勝」報道「戦勝五〇周年」と「戦後五〇年」
中国は戦後五〇年をどうむかえたか
解放五〇年を迎えた韓国
戦後五〇年とフィリピン
【連続ゼミ】「天皇の軍隊」の歴史と本質
ドイツ、戦争とナチズムの記念碑・記念館を考える⑤
日本軍政下のスカブミで起こったこと
裁かれなかった石井部隊Part1 — 日米取引の二重構造
【書評】荒井信一著『戦争責任論—現代史からの問い』

上杉 聡
佐藤健生
門奈直樹
岡本公一
井上久士
石坂浩一
中野 聡
藤原 彰
南 守男
川田文子
西里扶雨子
岡部牧夫

第12号 (96年夏季号) 【特集＝韓国併合合法論をめぐって】

韓国併合の歴史的 position
第二次日韓協約の形式について — 批准の問題を中心に
韓国側から見た「日韓併合」
姜昌一・(訳) 井上和枝
「韓国併合条約」無効論をめぐって
【書評】海野福寿編『日韓協約と韓国併合』
国連人権委員会 クマラスワミ報告を採択
日本ファシズムと病者・障害者 — 断種と虐殺
石家荘国際シンポジウムから'96中国人強制連行シンポジウムへ
花岡事件裁判の経過と現状
日本軍遺棄毒ガス弾問題
中国侵略日本軍が敦化に遺棄した毒弾およびその処理
王義傑・王仁学・陳延生 翻訳・上野真紀
【資料紹介】戦争認識をめぐる国会論議②

中塚 明
荒井信一
海野福寿
辻 弘範
上杉 聡
藤野 豊
老田裕美
新美 隆
吉見義明
吉田 裕

【書評】吉田裕著『日本人の戦争観』 清水正義
裁かれなかった石井部隊Part2 — マルタにされた連合軍捕虜 ドイツ、戦争とナチズムの記念碑・記念館を考える⑥ 西里扶雨子 南 守男

第13号 (96年秋季号) 【軍隊・戦争と性暴力】

中国戦線における日本軍の性犯罪 — 河北省・山西省の事例
【連続ゼミ】ヴェトナム戦争におけるアメリカ軍の残虐行為と性犯罪 笠原十九司
【連続ゼミ】生井さんの報告を聞いて — 二つの戦争の残虐行為と性犯罪 生井英考
軍隊と性暴力・過去から現在へ — カンボジアPKOと性暴力 川田文子 西野留美子
【書評】吉見義明・林博史編著『共同研究 日本軍慰安婦』 藤永 壮
国民基金の支給をめぐる 上杉 聡
撫順炭鉱中国人労働者の大量死 上羽 修
戦後世代の戦争責任をめぐって 田口裕史
【資料紹介】日本警察の「慰安婦」政策① — 『警察史』にみる「占領軍慰安婦」 吉見義明・尹明淑
【資料紹介】戦争認識をめぐる国会論議③ 吉田 裕
【資料紹介】日本軍における化学兵器補給量と使用量的一端 — 日中戦争期の毒ガス戦に関する新資料 松野誠也
【資料紹介】七三一部隊と奉天捕虜収容所 — 関東軍指令官による派遣命令 松村高夫
第14号 (96年冬季号) 【特集＝資料公開・戦争展示を考える】
公文書の焼却と隠蔽 吉田 裕
イタリア軍の毒ガス作戦 — エチオピア戦争での毒ガス使用をめぐって ズバラグリ・マルコ
長崎原爆資料館の加害展示問題 鎌田定夫
戦争と平和の資料について — 自衛隊・護国神社の資料館探訪記 原田敬一
毒ガス展のめざすもの — 展望

と課題 まかりとおる「戦争被害受認義務」論 — 韓国・朝鮮人BC級戦犯の判決 英軍による日本軍性暴力の追及 ドイツ、戦争とナチズムの記念碑・記念館を考える⑦ 【資料紹介】戦争認識をめぐる国会論議④ 【資料紹介】日本警察の「慰安婦」政策②『警察史』にみる「占領軍慰安婦」・「軍慰安婦」・「事業場慰安婦」	手塚愛一郎 平湯真人 林 博史 南 守夫 吉田 裕 吉見義明・尹明淑	在日韓国人元軍属の戦後補償 — 鄭商根大阪地裁反けるの意義と課題 富山・不二越強制連行訴訟判決について 上敷香国家賠償請求訴訟の経緯と判決 援護法傷害年金支給拒否決定取消訴訟の経緯と判決の問題性について 南京事件・ラーベ報告書 ジョン・H・ラーベ・(訳)片岡哲史 インドネシアの日本軍「慰安婦」調査「日本によって連れ去られた少女たちの足跡を追って」 (編) プラムディヤ・アナンタ・トゥール・(編・訳・解説) 押川典昭 台湾人性奴隷被害者のトラウマに関する研究 1644部隊の組織と活動② — 1942年の崇山村ペスト流行をめぐる 【資料紹介】戦争認識をめぐる国会論議⑤	丹羽雅雄 山田 博 宮田信男 金 敬得 片岡哲史 江 美芬 水谷尚子 吉田 裕
---	---	---	--

第15号 (97年春季号) 【特集＝「自由主義史観」批判 (1)】

近現代史教育「改革」運動の問題点 (1) 逸脱する「授業研究」 — 80年代歴史教育の問題性 中学生が望む歴史教育とは — 中学生からみて藤岡氏の歴史教科書批判は魅力的か 中国人「慰安婦」訴訟 — 取り組みの経緯と現状 中国人元「慰安婦」の証言 — 山西省孟県での被害者たち 「記憶の暗殺者たち」と討論して — 「朝まで生テレビ」と「サンデー・プロジェクト」 【連続ゼミ】戦時下の民間抑留者 — その相互比較 1644部隊の組織と活動① — 語りはじめた元部隊員たち ドイツ、戦争とナチズムの記念碑・記念館を考える⑧ 開廷50年後の東京裁判研究 — 『東京裁判を考える』シンポジウムに参加して ホームページで「平和資料館」を公開!	高嶋伸欣 今野日出晴 宮崎 章 大森典子 (解説) 林博史 上杉 聡 林博史・内海愛子 水谷尚子 南 守夫 永井 均 楠正昭・大川拓也
---	---

第16号 (97年夏季号) 【特集＝「自由主義史観」批判 (2) / 戦後補償裁判の現状】

加害学習と日本近代史の選択肢 — 帝国主義か植民地化か 近現代史教育「改革」運動の問題点 (2)	目良誠二郎 高嶋伸欣
---	---------------

第17号 (97年秋季号) 【特集＝「自由主義史観」批判 (3) / 「慰安婦」問題を考える視点】

「自由主義史観」の根底を問う — 歴史家は司馬史観をどう見るか 明日の歴史教育に向かって 近現代史教育「改革」運動の問題点 (3) 「慰安婦」問題の新局面 — 広義「強制」の犯罪性の確定と立法運動の開始 日本軍の残虐行為と性犯罪 — 山西省孟県の事例 公娼制とその周辺 — 東京府を中心に 元「慰安婦」にみる「複雑性PTSD」 — ジュディス・L・ハーマン著『心的外傷と回復』から 沖繩戦についての援護と国家補償 中華人民共和国の戦犯裁判① ドイツ、戦争とナチズムの記念	中村政則 大畑正弘 高嶋伸欣 上杉 聡 笠原十九司 早川紀代 梁 澄子 安仁屋政昭 豊田雅幸
--	--

碑・記念館を考える⑨ 南 守夫

第18号 (97年冬季号) 【特集＝「慰安婦」問題を考える視点 (2)】

女性史からみた「慰安婦」問題 藤目ゆき
「慰安婦」問題とフェミニズム 大越愛子
戦場での兵士の「セクシュアリティ」——高橋鐵の『生心レポート』より 山本直英
シンポジウム参加記—ナショナリズムと「従軍慰安婦」問題 杉本由美子
安丸良夫氏に聞く——「慰安婦」問題と歴史学
(聞き手) 成田龍一・岩崎稔・大内裕和
「自由主義史観」の「来歴」——どこから来てどこへ行くのか 波田永実
ドイツにおける「国防軍論争」 木戸衛一
中華人民共和国の戦犯裁判② 豊田雅幸
連載を終えて ドイツ、戦争とナチズムの記念碑・記念館を考える 南 守夫

第19号 (98年春季号) 【特集＝「慰安婦」問題を考える視点 (3)】

国外移送目的誘拐罪の共同正犯—隠されていた大審院判決 前田 朗
中国人元「慰安婦」の心的外傷とPTSD 桑山紀彦
フェミニズムアートと「慰安婦」——嶋田美子さんの表現 吉村真理子
【連続ゼミ】『ゴーマニズム宣言』を若者はどう読むか 若桑みどり
ヒロシマ・ナガサキと日本の加害責任 吉田一人
ピースおおさかへの右翼の攻撃 小山仁示
裁かれなかった戦争犯罪——イギリス軍の戦犯捜査記録より 林 博史
家永教科書裁判32年——その判決をどう評価するか 君島和彦
戦争遺跡保存の意義と課題 大日方悦夫
近現代史教育「改革」運動の問題点 (4) 高嶋伸欣
父が語った「731」 神谷則明
「南京1937」(プリンストン大学)参加記 吉田 俊
「南京大虐殺60周年東京国際シンポジウム」に参加して 石出みどり

第20号 (98年夏季号) 【特集＝最近の戦後補償裁判】

花岡事件裁判について——12・10判決批判と法解釈上の論点 新美 隆
日本製鉄元徴用工問題と新日本製鐵(株)との和解について 大口昭彦
【資料】関釜裁判の山口地裁判決(抄)
「三光作戦」と北支那方面軍(1)——抗日根拠地への熾滅掃蕩作戦 藤原 彰
生体解剖による結核予防法の確立 美馬聰昭
「慰安婦」問題と世界の女性暴力——「戦争と女性に対する暴力」国際会議報告 西野瑠美子
大阪大空襲について—戦略爆撃・無差別爆撃 小山仁示
核兵器も戦争もない世紀へ——「被爆者の自分史」の試みから 栗原淑江
近現代史教育「改革」運動の問題点 (5) 高嶋伸欣
【連続ゼミ】歴史修正主義と証言の問題—ヨーロッパの経験 鶴飼 哲
台湾で開催された「南京大虐殺60周年学術研討会」に参加して 水谷尚子・金丸裕一

第21号 (98年秋季号) 【特集＝日中戦争時期、中国における日本人の反戦活動】

特集編集前書き 姫田光義
インタビュー記録 中村善太郎(中小路静夫)さん、前田光繁(杉本一夫)さん、保谷政治(水野靖夫)さん、藤田豊(古賀初美)さん、王星さん(王建穎)さん、盧耀武さん、常化知さん
(聞き手) 姫田光義・堀井弘一郎・水谷尚子
『晋察冀日報』(『抗敵報』)——日本人反戦同盟関係記事目録
関釜裁判の経過と判決 山本晴太
映画『プライド』批判 赤澤史朗
横浜教科書訴訟の地裁判決をめぐって——「脱亜入欧」からアジアの一員へ 柴田 健
批判 渡辺寛著『南京虐殺と日本軍』——資料を大量に使用された側から 小野賢二

「三光作戦」と北支那方面軍(2)
— 抗日根拠地への燼滅掃蕩作戦

藤原 彰

近現代史教育「改革」運動の問題点 (6)

高嶋伸欣

「第2回戦争遺跡保存全国シンポジウム」報告

古賀徳子

【書評】 林博史著『裁かれた戦争犯罪 イギリスの対日戦犯裁判』

小菅信子

【書評】 川田文子編著『授業「従軍慰安婦」』、林博史・金富子編著『「日本軍慰安婦」をどう教えるか』

平井敦子

第22号 (98年冬季号) 【特集＝戦争遺跡からのまなざし】

神奈川の戦争遺跡 — その特徴と保存運動

渡辺賢二

沖縄の戦争遺跡と平和学習

村上有慶

松代大本営の歴史的意義

青木孝寿

戦争遺跡に関する文献紹介

本誌編集部

国連人権小委員会 マクドゥーガル報告書 (抄)

国連人権小委員会

日本軍「慰安婦」歴史館の開館戦争捕虜問題の比較文化的考察 (上) — 「食」の問題を中心に

池内靖子

日本ファシズムと性病—いわゆる「従軍慰安婦」の前提

中尾知代

【連続ゼミ】 戦争責任論からみた現代の南アフリカ

藤野 豊

【連続ゼミ】 戦争責任論からみた現代の南アフリカ

永原陽子

韓中首脳の来日と恒久平和議連、そして『戦争論』

上杉 聡

近現代史教育「改革」運動の問題点 (7)

高嶋伸欣

第23号 (99年春季号) 【特集＝「侵略の証言」が提起するもの】

戦犯自筆供述書

新井利男

「三光政策」の戦争犯罪論 — 国際刑事裁判所規程の紹介を兼ねて

前田 朗

中国戦犯供述書にみる日本軍の性暴力

川田文子

戦争捕虜問題の比較文化的考察 (中) 食の問題を中心に

中尾知代

『ナショナリズム』と「慰安婦」

問題』を読んで — フェミニズムは国民国家を相対化する

早川紀代

『ナショナリズム』と「慰安婦」問題』を読んで — フェミニズム連帯の可能性

宋 連玉

マスコミの「情報」と学問的「知識」 — 合衆国における『レイプ・オブ・ナンキン』に対する反響

井口博充・野崎与志子

【資料】 戦後50周年を記念して建てられたシンガポールの戦争記念碑

(編集・訳) 山口剛史

【連載】 歴史観×メディア=ウォッチング①懲りない面々と政治家の結びつき — 検定官更迭事件を読む

高嶋伸欣

第24号 (99年夏季号) 【特集＝「軍隊と性を考える」】

ベトナム戦争から湾岸戦争へ — 軍隊とアメリカの女性たち

白井洋子

沖縄の米軍と性犯罪

宮城晴美

シベリア出兵時における日本軍と「からゆきさん」

林 博史

【資料】 「慰安婦」・強制連行問題 — ILO条約勧告適用専門家委員会 1999年報告 (抜粋)

(訳) 中山和久

【連続ゼミ】 南京虐殺はどう語られてきたか—日・中・米における比較考察

吉田 俊

【連続ゼミ】 セックスワーク論と女性の人権

浅野千恵

海南島における日本海軍の「三光作戦」

藤原 彰

インターネットで見た世界の戦後処理の動き (上) スイスと金塊と休眠口座

安原佳子

第三回世界平和博物館会議に出席して

荒井信一

ロームシャになったスカルノ

上杉 聡

【連載】 歴史観×メディア=ウォッチング② 目的のためにはルールも無視する“文化人”たち

高嶋伸欣

過去の克服と日本の文学

岩淵達治・(訳) 林功三

第25号 (99年秋季号) 【特集＝十五年戦争をめぐる争点】

盧溝橋事件と通州事件の評価をめぐって

江口圭一

西尾幹二『国民の歴史』に触れつつ

上杉 聡

真珠湾陰謀説

荒井信一

脱ゴーマニズム裁判

高橋謙治

日米戦争の計画と現実 — オレンジ計画と日本の対米作戦計画

森 茂樹

「戦争論—新ゴーマニズム宣言」批判

西成田 豊

歴史を改ざんする右派勢力の最近の動向—「新しい歴史教科書をつくる会」を中心に

俵 義文

【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング④ 検証『国民の歴史』—「やぶへび」に至る壮大な失敗作

高嶋伸欣

国粹主義者批判 岩淵達治

・(訳) 林功三

戦争捕虜問題の比較文化的考察(下) — 食の問題を中心に

中尾知代

戦後史の中の軍刑法 「昭和館」と私たちの課題—今、なぜ、「昭和館」か

吉田 裕

【連続ゼミ】近代日本の対外出兵正当化の論理

伊香俊哉

中国山西省 性暴力被害者におけるPTSDの検証 第2次報告

西川重則

「新しい歴史教科書をつくる会」賛同者関係者一覧

俵 義文

日本鋼管訴訟和解とその意味するもの

桑山紀彦

西村真悟元防衛政務次官の発言に対する抗議声明

谷川 透

日本の戦争責任資料センター問題はなにか — 岩淵論文について

高嶋伸欣

林 功三

【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング③ 露呈した読売新聞の「産経化」

編集部よりのおわび

吉田 裕

インターネットで見た世界の戦後処理の動き(下) ナチと保険証書

安原桂子

第27号 (2000年春季号) 【特集＝中国上海・南京の日本軍慰安所】

エッセイ はじめての証言 スハナさんのこと

川田文子

中国での慰安所現地調査について

林 博史

【書評】『シンポジウム—ナショナリズムと「慰安婦」問題』

浅野千恵

上海の慰安所・現地調査報告 — 上海に慰安所の記憶と痕跡を訪ねて

西野瑠美子

【書評】『捕虜体験記』

松居竜五

南京レイプと南京の慰安所

川田文子

第26号 (99年冬季号) 【特集＝日本軍の化学戦をめぐって／日本軍の軍紀】

戦争犯罪と免責 — アメリカはなぜ日本の毒ガス戦追及を中止したか

吉見義明

中国人軍隊慰安婦問題に関する研究ノート — 上海と南京での研究交流を終えて批判的立場から考える

尹 明淑

敗戦時における化学兵器処理問題 — 米第八軍化学戦局資料を通して

大西比呂志

南京・上海の慰安所と上海派遣軍軍医部—「渡辺進軍医大尉日記」から

吉見義明

【資料紹介】「秘 国土決戦教令」

吉田 裕

「慰安婦」の緊急調査 蘇智良・(訳) 高宏

高宏

【資料紹介】沖縄戦における脱走兵について

林 博史

【シンポジウム報告集】「戦争論」から「戦争法」へ

川本隆史

【資料紹介】北支那方面軍司令部「治安維持関係書類集」(抄) 「民族」か「ジェンダー」か? —強いられた対立— 『ナショナリズムと「慰安婦」問題』その後

竹内 桂

戦争と戦争のルールの語り方 溢れ出す国家という〈公〉—揺さぶられる戦後の秩序感覚 国家戦略としての国旗

姜 尚中

若桑みどり

「アジア解放戦争論」の系譜—

上野千鶴子

『脱ゴーマニズム宣言』裁判と『戦争論』批判から見えてくるもの

上杉 聡

【連載】歴史観×メディア＝ウ

オッチング⑤ 無理を重ねる藤岡・産経コンビと『諸君』	高嶋伸欣
秦郁彦の「歴史学」とはなんであるのか? — 『慰安婦と戦場の性』に見る手法	前田 朗
中国浙江省麗水市における日本軍の細菌戦の概要	手塚愛一郎
日本占領下の海南島における強制労働①—強制連行・強制労働の歴史の総体的把握のために	キム・チョンミ
歴史クリップボード — 靖国偕行文庫オープン	吉田 裕

第28号 (2000年夏季号) 【特集=大学と戦争】

第二次世界大戦と大学	白井 厚
明治学院の戦争責任	小暮修也
名古屋大学の戦争責任 — 学生 の精神史を中心に	安川寿之輔
学徒兵の戦争責任をめぐって — 日本戦没学生記念会での議 論の経過と意味	田口裕史
将校への道を拒否した学徒 アメリカ議会の対日真相究明法 案について	荒井信一
「記憶」が持つ普遍の力を信じ て	エイブラハム・クーパー
南京の慰安婦と慰安所	経盛鴻・(訳) 高宏
上海での中国「慰安婦」問題国 際シンポジウムに参加して	宋 連玉
「女性国際戦犯法廷」をなぜ開 くのか — その目的と今日の意 義	松井やより
【連続ゼミ】精神の殺しかた— 保守政治が咲かせたあだ花	辛 淑玉
日本占領下の海南島における強 制労働②—強制連行・強制労働 の歴史の総体的把握のために	キム チョンミ
前田朗氏への反論 — 「盗用」 問題について答える	秦 郁彦
【連載】歴史観×メディア=ウ オッチング⑥ くり返される藤 岡・西尾コンビの矛盾隠し	高嶋伸欣
歴史クリップボード — 歴史と しての「衛生サック」	吉田 裕

第29号 (2000年秋季号) 【特集=検証『国民の歴史』】

中学校歴史教科書との間	今野日出晴
-------------	-------

近代史からの解析	大日方純夫
教科書国際交流の経験から見た 『国民の歴史』	君島和彦
「神州不滅」本土決戦の実態— 戦争指導者の戦中と戦後の無責 任	塚崎昌之
アメリカにおける強制労働集団 訴訟 — 請求権放棄とサンフラン シスコ平和条約	荒井信一
葬られた国際戦犯法廷 — 連合 国戦争犯罪委員会の資料より	林 博史
朝鮮人徴用労働者・軍人・軍属 の未払い賃金・俸給額を試算す る	古庄 正・谷川 透
ピースおおさかをめぐる攻防	空野佳弘
八重山平和祈念館展示資料改ざ ん問題	鈴木光次郎
【書評】『南京事件の日々 ミニ ー・ヴォートリンの日記』	川田文字
【連載】歴史観×メディア=ウ オッチング⑦ 産経・読売両紙 の墮落と厚顔	高嶋伸欣

第30号 (2000年冬季号) 【特集=日独・戦後補償問題の現状】

戦後補償立法運動の現状	朴 在哲
日本の戦争関連記録の情報公開 について	荒井信一
禁止されていた重大違反行為が被 害者の個人請求権放棄 — 1949 年ジュネーブ条約が日本軍性奴 隷・強制労働問題に与える影響	戸塚悦朗
ドイツ「記憶・責任・未来」基 金の成立とその歴史的意義	矢野 久
対談 戦争・戦災資料センター 建設を期して — ドレスデン・ 東京・2000年	早乙女勝元・北村 浩
沖縄県立平和資料館の設立	安仁屋政昭
憲法違反・侵略戦争肯定の「あ ぶない教科書」の実態	俵 義文
戦後中国における日本人戦犯裁 判	宋 志勇
【連載】歴史観×メディア=ウ オッチング⑧ 白表本をめぐる 「つくる会」の悪あがき—藤岡 氏の無知と怠慢がもたらすもの	高嶋伸欣
【資料紹介】俘虜管理部長懇談 要旨	高嶋隆治

【資料紹介】 フィリピンにおける日本軍の性暴力 — 『日本占領下フィリピンにおける日本軍性暴力史料集』 (解説) 林 博史

第31号 (2001年春季号) 【特集=戦後の日韓、日朝関係を考える】

朝鮮戦争における日本人の参戦問題 大沼久夫
自治体と民間の朝鮮戦争協力動員 山崎静雄
今日から見た日韓会談 吉澤文寿
日朝国交正常化交渉の経緯と現状 北川広和
韓国から見た日本の歴史教科書 鄭 在貞
オーストリアの戦争責任問題とハイダーの生い立ち 増谷英樹
日本帝国政府記録情報公開法について 荒井信一
花岡事件和解の経緯と意義 新美 隆
在日元「慰安婦」謝罪・補償請求事件 控訴審判決について 小沢弘子
「慰安婦」問題解決の展望と課題 — 「女性国際戦犯法廷」を傍聴して 松村由子
平和資料館「草の家」と世界の平和博物館 山根和代
【資料紹介】 戦争認識をめぐる国会論議⑥ 吉田 裕
【連載】 歴史観×メディア=ウォッチング⑨ 「つくる会」の事実隠しと公取委告発 高嶋伸欣
産経新聞社・扶桑社・「つくる会」による違法行為への排除申告全文
— 「新しい歴史教科書をつくる会」の中学校「歴史」「公民」教科書に対して 高嶋伸欣・上杉 聰

第32号 (2001年夏季号) 【特集=女性国際戦犯法廷／「つくる会」歴史・公民教科書批判】

民衆法廷としての「女性国際戦犯法廷」の意味と成果
— 被害者・女性運動・国際市民社会の力で 松井やより
真実と正義を重ねて—女性国際戦犯法廷傍聴記 田中伸尚
女性国際戦犯法廷が映し／創り

出したもの—国際法学の地平 阿部浩己
アジアにおける戦争と賠償と和解について マーク・セルデン・(訳) 野崎与志子

「醜悪な世紀」にたちむかう人々 早川紀代
「つくる会」歴史教科書の検討と批判 上杉 聰

女性蔑視、伝統主義・国家主義の「つくる会」教科書
一周縁化させる女性・人権・両性の平等 西野瑠美子
「新しい歴史教科書」の問題点—古代史を中心として 藤田友治
【連載】 歴史観×メディア=ウォッチング⑩ 「つくる会」版教科書の検定合格 — 自らの存在意義を否定した文部科学省 高嶋伸欣
【資料 声明・修正要求等】
「つくる会」教科書・教科書検定に対する共同アピール
「教科書に真実と自由を」連絡会他12団体
歴史家7人による「つくる会」歴史教科書についての声明 (付、近現代史部分の誤り・問題点) 荒井信一他6名
韓国政府発表の中学校歴史教科書修正要求
中国側が日本側に提出した日本の教科書問題に関する覚え書き
【連続ゼミ】 開封されたホロコーストと戦争犯罪
— 「過去の克服」をめぐる現代ヨーロッパの挑戦 石田勇治
フィリピンにおける性暴力と加害部隊 (上) 上田敏明
中国国民政府の日本戦犯処罰方針の展開 (上) 伊香俊哉
国連人種差別撤廃委員会見聞 遠藤智子

第33号 (2001年秋季号) 【特集=日独における強制連行・強制労働】

戦争責任と戦後補償
— 中国人強制連行「劉連仁事件」東京地裁判決に寄せて 松尾章一
中国人強制連行・強制労働についての法律問題 森田太三
強制連行・強制労働の日独比較 矢野 久
ドイツの戦時奴隷労働に対する

補償

ヘルベルト・キュッパー・(訳) 戸塚悦朗
 「つくる会」の敗北は平和・人権意識の勝利 上杉 聡
 【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング⑪ 「つくる会」(扶桑社)本の採択“大惨敗”——さらなる責任追及の必要性 高嶋伸欣
 日本の歴史教科書に関する国際研究者アピールについて (解説・訳) 野崎与志子

中国人「慰安婦」第1次訴訟 坂口禎彦
 東京地裁判決批判
 フィリピンにおける性暴力と加害部隊(下) 上田敏明
 中国国民政府の日本戦犯処罰方針の展開(下) 伊香俊哉
 【資料紹介】「慰安婦」援護実例に関する国会審議 池谷好治

第34号 (2001年冬季号) 【特集＝日本の敗戦とアジア】

「大東亜共栄圏」からの独立——インドネシアの戦中・戦後と日本 村井吉敬
 光復後の楊逵—台湾文学1945～49年への一考察 丸川哲史
 植民地支配から分断国家へ——朝鮮総督府の「8・15」政策を中心に 李 圭泰
 ナチス体制下のオーストリアにおける強制労働 金子マーティン
 ダーバンへの道、ダーバンからの道——人種差別に反対する世界会議に参加して 前田 朗
 花岡訴訟「和解」の問題点—日本の戦後処理の再生産 張 宏波
 ローラバッカー法とサンフランシスコ講和条約 荒井信一
 「つくる会」教科書の不採択運動と今後の課題 俵 義文
 韓国における「慰安婦問題解決」運動の位相(上) 山下英愛
 —80～90年代の性暴力運動との関連で
 【資料紹介】台湾拓殖株式会社「日本軍慰安所」関係資料 (解説) 林 博史

第35号 (2002年春季号) 【特集＝「つくる会」教科書問題の今後】

「つくる会」教科書と文部科学省、そして私たちのこれから 上杉 聡
 「つくる会」教科書をはねかえすのは現場の実践から 藤川伸治
 【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング⑫ 教科書攻撃の政治的背景と“草の根の民主主義” 高嶋伸欣
 教科書問題は終わっていない——歴史歪曲を許さない私たちの課題 俵 義文
 オーストリアにおける元奴隷・強制労働者の賠償問題 金子マーティン
 「共同謀議罪」はなぜ必要とされたか 清水正義
 韓国における民間人虐殺事件真相究明の闘い 大畑龍次
 韓国における「慰安婦」問題解決運動の位相(下) 山下英愛
 —80～90年代の性暴力との関連で
 次々と公開される戦争関係資料—米国立公文書館資料調査中間報告 林 博史

第36号 (2002年夏季号) 【特集＝靖国問題と戦没者追悼】

誰が追悼できるのか——靖国神社と戦没者追悼 原田敬一
 小泉首相靖国参拝の政治過程——「国家と慰霊」に関する序論 波田永実
 戦没者の追悼と“平和の礎” 屋嘉比収
 アメリカにおける戦没者追悼——その形態と機構の歴史的考察 吉田 俊
 ドイツ戦没者追悼史と靖国国立墓苑問題(上)——19世紀から第二次世界大戦まで 南 守夫
 【連続ゼミ】テロ事件・アフガン攻撃と国際法 申 恵丰
 【連続ゼミ】ホロコースト——記憶のたたかいと形象化 荒井信一
 【シンポジウム報告】「歴史認識と東アジアの平和フォーラム」 南京会議報告 日本の戦争責任資料センター
 【シンポジウム報告】南京大虐

殺と教科書問題	笠原十九司
【シンポジウム報告】教科書問題、村山談話、韓日関係	河 棕文
【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング⑬ “有害図書”扶桑社本と産経新聞への公開質問状	高嶋伸欣
【資料紹介】日本軍「慰安婦」・性暴力に関する資料状況	林 博史

第37号 (2002年秋季号) 【特集＝戦没者追悼をめぐって】

戦後地域社会における戦死者「追悼」の論理	一ノ瀬俊也
フィリピン戦没日本人慰霊の営みと戦争責任の記憶	中野 聡
小泉首相靖国参拝違憲アジア訴訟の意義	菱木政晴
ドイツ戦没者追悼史と靖国・国立墓苑問題 (中) ～第二次大戦後	南 守夫
中国人強制連行・強制労働事件～福岡訴訟判決	松岡 肇
李秀英名誉毀損事件～東京地裁判決	渡辺春己
戦争の惨禍を語りつぎ平和を学ぶ 東京大空襲・戦災資料センター	
東京裁判・ブレイクニー弁護人の弁論～「原爆発言」をめぐる誤訳と書き換え	高取由紀
「三光作戦」実行部隊の内部矛盾と将兵の心情～安新県・中隊長射殺事件	上羽 修
サンフランシスコ講和と安保～調印から半世紀、アジアの差別的国際構造の歴史	三浦陽一
【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング⑭ “有害図書”扶桑社へのさらなる追及と公開質問状	高嶋伸欣
【資料紹介】復員局・陸軍軍法会議廃止に関する顛末書	吉田 裕
【資料紹介】進展するアメリカの戦争関係資料の公開～米国立公文書館資料調査報告 (2)	林 博史

第38号 (2002年冬季号) 【特集＝「慰安婦」問題の10年－その現段階と根本的解決に向けて／情報公開と現代史】

日本軍性奴隷 (「従軍慰安婦」) 制度研究の現段階	吉見義明
国民基金の「償い事業」とは何かだったのか	金 英姫
国際法は日本の国家責任をどこまで認めたか	東澤 靖
「戦時性的強制被害者問題解決促進法案」提出と経過	吉川春子

【資料】戦時性的強制被害者問題解決促進法案	
【資料】「慰安婦」問題をめぐる国会での論戦 (上)	
～第154国会参議院内閣委員会会議録抜粋	
【資料】国立国会図書館法の一部を改正する法律案 (略称「恒久平和調査局設置法」) 及び法案趣旨説明	
日本の押収文書の行方	
グレッグ・ブラッドシャー・(訳) 荒井信一	
情報公開法を使いこなす ― 宮内庁における体験から	瀬畑 源
【資料】原爆投下にかんするマジック資料	
日本の戦争責任資料センター研究事務局	
敗戦時の公文書廃棄についての資料・補遺	林 博史
【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング⑮ 矛盾点そのままの「つくる会」と拉致問題	高嶋伸欣
【資料文献紹介】「奈良武次日記」	伊香俊哉
ドイツ戦没者追悼史と靖国・国立墓苑問題 (下)	南 守夫

第39号 (2003年春季号) 【特集＝戦争と疾病】

軍隊と知的障害者	
～付・精神障害元兵士の戦後史の一断面	清水 寛
国立療養所箱根病院西病棟の元傷痍軍人	井上 弘
【資料紹介】アメリカ軍ならびに日本軍における戦争神経症についてのレポート	

日本の戦争責任資料センター研究事務局・(翻訳協力) 川島めぐみ	
朝鮮人強制連行の概念 ― 日弁連勧告から	洪 祥進

【資料】「朝鮮人強制連行・強制労働」日弁連・勧告書と人権擁護委員会報告書

日本における「宗教右翼」の台頭と「つくる会」「日本会議」731部隊細菌戦裁判・東京地裁判決の意義と控訴審の課題

日朝国交正常化とピョンヤン宣言

【資料】「慰安婦」問題をめぐる国会での論戦（下）

—第154国会参議院内閣委員会会議録抜粋

アメリカ合州国中学生の記述する「太平洋戦争」

【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング⑩ 教科書誤記問題で露呈した産経・読売の共同歩調

第40号（2003年夏季号）【特集＝現代史・戦争責任研究と情報公開法】

アメリカの戦争関係資料調査について

日本の戦争責任資料センター研究事務局

日本軍の毒ガス戦とアメリカーアメリカ国立公文書館の資料から

「白人捕虜」と戦時宣伝 グラムにおける米海軍の戦犯裁判（上）

米国立公文書館の第二次世界大戦期フィリピン関係史料について

【資料紹介】占領軍進駐直後の米兵による強かん事件捜査報告書

日本の戦争責任資料センター研究事務局

情報公開法の施行と歴史史料 情報公開法のその後～青森県の現状と対策

【資料紹介】韓国国会・日本国の「戦時性的強制被害者問題の解決の促進に関する法律」の制定促進決議（解説）

戦後補償訴訟の転機 — 徐斥期間及び「国家無答責」を適用せず 民衆法廷は既存システムの補完

上杉 聡

一瀬敬一郎

荒井信一

本誌編集部

井口博充

高嶋伸欣

吉見義明

内海愛子

林 博史

中野 聡

吉田 裕

中園 裕

荒井信一

高木喜孝

役から市民社会の本流へ—アフガニスタンと日本、そして世界をつなぐ

日本に滞在するアフガニスタン難民のPTSD所見—拘留による更なる外傷体験

ハンセン病患者の沖縄戦（上）

【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング⑪ 「つくる会（扶桑社）」本問題と拉致問題を教室で扱う

第41号（2003年秋季号）【特集＝天皇制問題】

ハーバート・ビックス『昭和天皇』の読まれ方

—改めて冷静な議論を 昭和天皇の戦争責任の論じ方をめぐって

マッカーサー軍の対日心理作戦と天皇制

【資料紹介】アメリカが分析した日本人の天皇観

（編・訳）日本の戦争責任資料センター研究事務局

ドイツ連邦共和国における現代史研究と知る権利（上）

—ナチ体制期史料とその公開をめぐる問題

【資料紹介】インドネシアにおける日本軍「慰安婦」に関する資料

～「NEFIS尋問報告」から ハンセン病患者の『沖縄戦』（下）

グラムにおける米海軍の戦犯裁判（下）—「強制売春」事件を中心に

描かれた細菌戦—佐多稲子『若き妻たち』

【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング⑫ 歪曲が続く北朝鮮情報

～拉致問題の授業化は時期尚早 『季刊戦争責任研究』創刊～第40号総目次

第42号（2003年冬季号）【特集＝「非人道的」兵器と人権】

清水竹人

桑山紀彦

吉川由紀

高嶋伸欣

川島高峰

安田 浩

張 會植

芝 健介

吉見義明

吉川由紀

林 博史

長瀬春代

高嶋伸欣

非人道的兵器と人権 荒井信一 日本に文書基本法と記録管理院の実現を—国際資料研究所からの提案 小川千代子

旧日本軍の遺棄・隠匿した毒ガス兵器による被害と補償

—9.29判決を踏まえて 南 典男 オーストリアとホロコースト(上) — ウィーンの記念碑から考えるオーストリアの戦争責任 松岡由季

アフガンにおけるアメリカの戦争犯罪 前田 朗 『平和を希求して』を読んで 川田文子

沈黙の帳を描き出す — カナダとアメリカによる中国での日本軍の細菌戦の隠蔽

ジョン・プライス・(訳) 高山智樹

【資料紹介】1973年の「旧軍毒ガス弾等の全国調査結果報告(案)」等について 吉見義明

【資料紹介】記録された最も早い生物戦 林 博史

日本の戦争責任資料センター研究事務局 【連載】歴史観×メディア=ウォッチング⑳ 事実を報道しない産経新聞と拉致問題への疑問 高嶋伸欣

【資料紹介】「北<田童>村事件」をおこした日本軍部隊の毒ガス戦報告書 上羽 修

ドイツ連邦共和国における現代史研究と知る権利(下) 上杉 聰

—ナチ体制期史料とその公開をめぐる問題 芝 健介 坂巻幸雄

教育基本法改悪を強行する布陣をしいた小泉第二次改造内閣 俵 義文

雲南省の「玉碎」地の「慰安所」 金 栄 川田文子

郭貴勲裁判は何を勝ち取り、どのような課題を残したか 永嶋靖久

【連載】歴史観×メディア=ウォッチング⑲ 産経新聞の暴走と拉致被害者の冷静な発言 高嶋伸欣 吉見義明

第44号(2004年夏季号)【特集=旧日本軍遺棄毒ガス—国内被害問題】

遺棄毒ガスによる国内被害と神栖問題 上杉 聰

神栖町のヒ素汚染と地下水調査六〇年近く経って顕れた毒ガス兵器被害 坂巻幸雄

—茨城県神栖町木崎の被害者を訪ねる 川田文子

毒ガス問題と資料公開—恒久平和調査局設置の必要性との関連で 吉見義明

【資料紹介】「『戦後における旧日本軍毒ガス弾等の処理の状況(14・6)』」

第43号(2004年春季号)【特集=日本の軍国主義研究】

「軍国主義」覚書 荒井信一 日本に文書基本法と記録管理院の実現を—国際資料研究所からの提案 小川千代子

近代日本の内外政策 — 政軍関係論及び政軍関係史から見た政策決定過程を中心に 緞 厚 戸塚悦朗

軍隊の国民的基盤を考える 吉田 裕

中国の前線における日本軍兵士の意識 笠原十九司

「つくる会」最近の動向から見る日本の歴史認識 俵 義文

戦時女性に対する暴力への日本司法の対応、その成果と限界(上) 松岡由季

—発掘された日本軍「慰安所」拉致処罰判決(1936年)をめぐる 池谷好治

【資料紹介】戦争中の個人補償に関する日本外交文書

日本の戦争責任資料センター研究事務局
オーストラリアの対日戦犯政策
の展開（下）——BC級戦犯裁
判を中心に 林 博史
【連載】歴史観×メディア＝ウ
ォッチング⑲ 政治家の大学入
試介入阻止と揺れる新聞報道 高嶋伸欣

**第45号（2004年秋季号）【特集＝軍隊と地域—
その歴史と現在】**

戦争・軍隊史研究とオーラルヒ
ストリー 荒川章二
米軍と地域／性一占領期の東富
士演習場の事例を中心に 平井和子
真田山陸軍墓地と大阪 横山篤夫
自治体史編纂と軍事史研究—十
五年戦争期の町村兵書類を中
心に 山本和重
「軍隊と地域」研究の成果と展
望——軍事演習を題材に 中野 良
「日帝強制占領下における強制
動員被害真相究明特別法」の意
義 張完翼・（訳）姜恵禎

「日帝強制占領下における強制
動員被害真相究明特別法」
朝鮮人強制連行——その概念と
史料から見た実態をめぐって 外村 大
中国人強制連行・強制労働裁判
の最近の判決をめぐって 森田太三
オーストリアとホロコースト
（下）——映画に見るオースト
リアの犠牲者神話 松岡由季
【資料紹介】歩兵第二二四聯隊
「冬期山西肅正作戦戦闘詳報」 吉見義明
【書評】石田米子・内田知行編『黄
土の村の性暴力』 川田文子
【連載】歴史観×メディア＝ウ
ォッチング⑳ 読売・産経の反
社会的動きと「つくる会」の“ル
ール”破り 高嶋伸欣

**第46号（2004年冬季号）【特集＝戦後60年に向
けて—真相究明・戦後補償問題の展望】**

資料・歴史・政治 鶴飼 哲
歴史認識の政治的利用—歴史事
実の公的調査と記録管理をめぐ
って 川村一之
「慰安婦」問題とアクティブ・

ミュージアム運動
—「女たちの戦争と平和資料館」
を中心に 西野瑠美子
「中国人強制連行・強制労働補
償基金」の内容と実現に向けて 森田太三
朝鮮人強制労働—戦後六〇年に
に向けて 谷川 透
南京大虐殺をめぐる動向と課題
七三一部隊をめぐる調査・研究
の現状 鈴木千慧子
戦後六〇年とイラク開戦二年
（上）——「憲法・教育基本法」
の改悪と「つくる会」教科書へ
の視点 上杉 聰
日本人の意識映し出す鏡 イラ
ク人質事件—海外メディアは何
を伝えたか 西里扶冏子
日華平和条約の裏側—日本占領
下フィリピンにおける中国外交
官殺害事件の顛末 永井 均
消えない父への憤り 川田文子
【連載】歴史観×メディア＝ウ
ォッチング㉑ 「つくる会」が
つくった文部行政の綻び—天
皇の政治的利用も裏目となって 高嶋伸欣

**第47号（2005年春季号）【特集＝「慰安婦」・
性暴力裁判の成果と課題】**

「在日元従軍慰安婦」謝罪・補
償請求事件裁判の成果と課題
——宋神道さんと歩んだ10年 朱秀子
山西省性暴力被害者裁判と関連
する活動—その成果と課題 川口和子・川見公子・石田米子
中国人「慰安婦」訴訟の10年を
振り返って 大森典子・安達洋子
日本軍「慰安婦」問題をめぐる
国連機関の動き 渡辺美奈
関釜裁判の成果と課題 花房俊雄
オランダ人捕虜・民間抑留者戦
後補償訴訟——国際人道法と個人
請求権 高木喜孝
「つくる会」教科書はこう変わ
った!?——新旧「教科書」比
較から削除・訂正・無修正箇所
を示す 本誌編集部
イラク国際戦犯民衆法廷 稲森幸一
世論からみる「過去の克服」 中山淳雄

職業人のための歴史教育事業
— ドイツ・ヴァンゼー会議記念館
日帝末期強制連行犠牲者遺骨問題の本質と課題

鄭惠瓊・(監修) 金哲秀・(訳) 李善伊

【連載】歴史×メディア=ウォッチング②④ 破綻した文科省の白表紙本公表規制

東 自由里

高嶋伸欣

第48号 (2005年夏季号) 【特集=東アジアのなかの歴史教科書問題】

「つくる会」教科書の問題点と2005年のたたかい
日韓歴史共通教材の到達点と残された課題
『未来をひらく歴史』作成の経過と論点 (上)
日中関係の現状と認識のギャップ

俵 義文

君島和彦

齋藤一晴

殷 燕軍

【資料】「つくる会」教科書をめぐる文科省・公取委への告発書

高嶋伸欣・上杉 聰

【資料】近隣諸国条項についての国会論戦

本誌編集部

【資料】盧武鉉韓国大統領の3・1節記念演説ならびに韓日関係に関する対国民談話

本誌編集部

「平和のための戦争展」の全国的動向—現状と課題

二橋元長

イラク市民レジスタンス—武力によらない反占領の闘い
台湾の阿(女偏+馬)たちとともに—裁判支援活動を通して
治安維持法被害者への償いの意味と現実

森 文洋

柴洋子

根本孔衛

【連載】歴史×メディア=ウォッチング②⑤ 文科省と扶桑社のなれあいのルール違反

高嶋伸欣

第49号 (2005年秋季号) 【特集=戦後60年】

戦後60年—歴史問題と北東アジアの平和
『日韓保護条約』100年—「明治の記憶」とその忘却しているもの
公開された日韓会談関連外交文書について

荒井信一

中塚 明

吉澤文寿

名前を記す—大阪空襲死没者名簿編纂事業を終えて
沖縄陸軍病院における青酸カリ配布の実態
「強制動員真相究明ネットワーク」の設立にあたって
戦時動員(強制連行)された朝鮮人とその遺族の戦後
『未来をひらく歴史』作成の経過と論点 (下)
自治体における無防備地域宣言—非武装・非暴力・無防備の新しい平和運動

佐々木和子

古賀徳子

福留範昭

山田昭次

齋藤一晴

前田 朗

【資料紹介】沖縄—キャンプ・コザに収容されていた朝鮮人「慰安婦」の写真

日本の戦争責任資料センター研究事務局

【連載】歴史×メディア=ウォッチング②⑥ 政官民癒着体制での採択「惨敗」—証明された草の根民主主義の健在ぶり

高嶋伸欣

第50号 (2005年冬季号) 【特集=靖国神社と追悼】

靖国訴訟の射程
遺族に沈黙を強いる靖国
ナショナリズムと靖国
アジア・太平洋戦争再論
ドイツの「戦後60年」
抗日戦時期の重慶大爆撃の損失および遺留問題

田中伸尚

内海愛子

吉田 裕

木坂順一郎

木戸 衛一

潘洵・彭興華・(訳) 老田裕美

空襲・戦災記録運動と空襲研究の動向
小泉第三次改造内閣を斬る
「つくる会」との闘い2005年—成果と課題、そしてこれから

今井清一

俵 義文

上杉 聰

世界は市民の手に—イラク国際戦犯民衆法廷を通じて
【資料紹介】報道された無数の「百人斬り」

猿田佐世

(編・解説) 小野賢二

【連載】歴史×メディア=ウォッチング②⑦ 早くも表面化した「惨敗」の後遺症—「つくる会」の土台を崩す構造改革を

高嶋伸欣

第51号 (2006年春季号) 【特集＝朝鮮人強制連**行・強制労働問題】**

強制動員真相究明ネットワークの課題	飛田雄一
「紀元二千六百年祝典」と朝鮮人建国奉仕隊	川瀬俊治
朝鮮人強制連行方法とその強制性	守屋敬彦
朝鮮人強制労働全国一覧表を作成して	竹内康人
麻生系炭坑の朝鮮人労働者	横川輝雄
土の中からの告発―北海道における強制連行犠牲者と遺骨問題	殿平善彦
朝鮮人徴用動員と動員体制―1944年を中心に	樋口雄一
東北アジアの歴史教科書協力が持つ意味	辛珠柏・(訳) 金鉉洙
慟哭の航路―日本軍「慰安婦」を運んだ陸軍徴備船	平尾弘子
戦後60年と歴史博物館・平和博物館の戦争展示	山辺昌彦
小泉首相靖国参拝違憲台湾関係第二次訴訟高裁判決がもたらしたもの	菱木政晴
昭和天皇記念館は裕仁の何を映すか?―基地の町・立川から	井上 森

第52号 (2006年夏季号) 【特集＝戦争と障害者】

戦傷精神障碍元兵士の戦後史(上)―戦傷病者特別援護法等の受療者の概況	清水 寛
沈黙の声 沖縄戦の精神障害者聞き書き 沖縄戦を生き抜いたろう者	謝花直美
ドイツ軍と性暴力―ビルギット・ベックの最新の研究をめぐって	加藤 健
「つくる会」内紛の背景と今後	小野寺拓也
『華北労働問題概説』に見る中国人強制連行前史	上杉 聰
【資料紹介】沖縄戦についての日本軍資料	守屋敬彦
【連載】歴史観×メディア＝ウオッチング⑧ 事実歪曲の俗説たれ流しと是正の取り組み	林 博史
『季刊戦争責任研究』総目次創刊号～第50号	高嶋伸欣

第53号 (2006年秋季号) 【特集＝空襲を問う】

空襲の世紀の法理と日本	荒井信一
東京大空襲と朝鮮人	李 一満
東京空襲遺族会の集団訴訟―経緯、目的と意義	星野ひろし
重慶大爆撃訴訟の提訴の経緯と今後の課題	一瀬敬一郎
戦傷精神障碍元兵士の戦後史(下)―「未復員」精神障碍者を訪ねて	清水 寛
韓国映画が映す日常と純愛と歴史	金 恵信
【資料紹介】韓国側文書に見る日韓国交正常化交渉(その1)請求権問題(上)	(訳・解説) 李洋秀
【連載】歴史観×メディア＝ウオッチング⑨ 小泉首相の大失態と教基法改訂論議	高嶋伸欣
【資料紹介】日中戦争期における日本軍人の自殺についての憲兵隊報告	本誌編集部
「抗日戦時期の重慶大爆撃の損失および遺留問題」についての訂正	潘 洵

第54号 (2006年冬季号) 【特集＝靖国と天皇】

天皇制と靖国	吉田 裕
韓国から見た靖国問題	南 相九
追悼の政治学	上杉 聰
第二次大戦の激戦地とホロコーストの現場で―東欧・旧ソ連西部における史跡と記憶	井上茂子
国民の歴史と帝国の記憶―現代フランスにおける植民地支配の過去	松沼美穂
アメリカ下院の「慰安婦」決議と日本政府の妨害活動	荒井信一
自民党新憲法草案の「軍事条項」―明治憲法・ドイツ基本法と比較する	網屋喜行
情報公開法と宮内庁資料―不服審査の結果を中心に	佐藤宏治
朝鮮人強制動員犠牲者の遺族の声を聴く―韓国・朝鮮の遺族とともに―遺骨問題の解決へ	
2006年夏	福留範昭
軍需省燃料局長通牒と中国人強	

制労働企業の獲得国庫補助 守屋敬彦 (解説) 内海愛子・(監訳) 村岡崇光・(協力) 梶村太一郎

【資料紹介】韓国側文書に見る日韓国交正常化交渉(その2) 【資料紹介】東京裁判で裁かれた日本軍「慰安婦」制度

請求権問題(下) (訳・解説) 李洋秀 日本戦争責任資料センター研究事務局

【資料紹介】鉄血勤皇隊編成に関する日本軍と沖縄県の覚書ならびに軍命令 林 博史

【連載】歴史観×メディア=ウォッチング⑩ 欠落している構造的に歴史に学ぶ姿勢 高嶋伸欣

第55号(2007年春季号) 【特集=朝鮮人強制連行】

朝鮮人強制連行真相究明の課題 福留範昭

朝鮮人被強制連行死亡者の遺骨・遺族扶助料 守屋敬彦

1945年4月以降の日本への朝鮮人強制連行——朝鮮人「兵士」の果たした役割 塚崎昌之

アジア太平洋戦争末期朝鮮における勤労援護事業 外村 大

日帝強占下強制動員被害真相究明委員会の調査を通してみた労働動員 鄭恵瓊・(訳) 福留範昭

「強制連行」と「拉致」の概念をめぐって 上杉 聡

中国側から見た日本軍の戦争犯罪 笠原十九司

ドイツ人の「過去の克服」の旅「傷痕軍人」をめぐる研究状況と現在 井上茂子

【資料紹介】台湾における台湾外への戦時労働動員 樋口雄一

【資料紹介】韓国側文書に見る日韓国交正常化交渉(その3) 在日韓国人の国籍 (訳・解説) 李洋秀

【連載】歴史観×メディア=ウォッチング⑪ 事実歪曲をくり返すメディア界の厚顔無恥体質 高嶋伸欣

皇室典範の改正をめぐって——「万世一系」派がもたらす大衆天皇制の危機の構図 上杉 聡

『男たちの大和』をめぐって——歴史学の視座から 佐藤宏治

特攻隊員とされた朝鮮人 裴始美・野木香里

【資料紹介】東京裁判における東条尋問の裏面——『極東国際軍事裁判弁護人塩原時三郎氏からの聴取書』より 佐治暁人

【連載】歴史観×メディア=ウォッチング⑫ 「進歩的」文化人の事実認識と歴史歪曲の危険性 高嶋伸欣

第57号(2007年秋季号) 【特集=「慰安婦」決議と歴史認識問題】

米議会下院の「慰安婦」決議 荒井信一

米国平和研究所シンポジウム——「過去の遺産との対面」 吉田 俊

【資料紹介】日本の裁判所が認定した日本軍「慰安婦」の被害事実(下) (編集・解説) 坪川宏子

【資料】日本軍「慰安婦」問題についての米下院決議

【資料】提言 日本軍「慰安婦」問題における謝罪には何が必要か

捕虜問題をめぐる日英「和解」の断層(上)——元捕虜たちはどう語っているか 中尾知代

朝鮮農業再編製と戦時下労働動員——朝鮮農民半減政策を中心に 樋口雄一

宋神道さんのたたかいを振りか

第56号(2007年夏季号) 【特集=「慰安婦」問題の最前線】

米下院「慰安婦」決議案と河野談話——日本軍「慰安婦」制度研究の最新の知見から 吉見義明

【資料紹介】戦犯として裁かれた慰安所経営者——インドネシア・「櫻俱樂部事件」判決文から

える — 記録DVD『オレの心は負けていない』完成を機に
「靖国合祀」の仕組みとは？
— 招魂された「英霊」は資格
審査を経て「祭神」へ!?
【資料紹介】戦犯の靖国神社合祀
日本の戦争責任資料センター研究事務局
【資料紹介】韓国側文書に見る
日韓国交正常化交渉（その4）
大村収容所、北朝鮮帰還事業、
そして個人請求権 （訳・解説）李洋秀

第58号（2007年冬季号）【特集＝南京事件と日本社会】

史料発掘 南京虐殺の現場と写真
— 砲兵の陣日記と回想録より
（解説）笠原十九司
東京裁判で証言された南京レイプ
川田文子
日本政府はなぜ南京事件否定論
に立とうとするのか — 戦後日
中関係史に位置づけて
笠原十九司
南京国際救済委員会に派遣され
た日本人 安村三郎 渡辺久志
南京事件否定論とその受容の構
造 山北宏・能川元一

いま、埼玉県平和資料館で何が
起きているか 二橋元長
政治家・メディアと南京事件 俵 義文
日中共同声明五項の解釈を誤っ
た四・二七最高裁判決を批判す
る 管 建強
空襲の歴史を見直す 荒井信一
捕虜問題をめぐる日英「和解」
の断層（中） — 和解のシンボ
ル、ジャック・カプランの遺言
中尾知代
【連載】歴史観×メディア＝ウ
ォッチング③『朝日』の失われ
た20年 — コタバルと真珠湾
「ほぼ同時」説批判 高嶋伸欣
【資料紹介】『嶋田繁太郎大将備
忘録』 — 日中戦争における日
本海軍 宇田川幸大

第59号（2008年春季号）【特集＝ジェノサイド】

比較ジェノサイド研究の課題と
射程 石田勇治
ルワンダのジェノサイドを引き

起こしたもの — 歴史・国際関
係・国家 武内進一
「スレブレニツァ・ジェノサイ
ド」を検証する 長有紀枝
「文化ジェノサイド」としての
植民地支配 — 日本による朝鮮
支配を例に 松村由子
国際刑事裁判所の創設とその可
能性—ジェノサイド等の処罰と
予防に向けて 福永美和子
フランコと再び向き合うスペイ
ン社会 — 「歴史的記憶の法」
成立をめぐって 飯島みどり
空襲認識をめぐる諸問題 — ド
イツ・ドレスデンを例に 柳原伸洋
Aサイン制度のポリティクス
— 軍事占領期沖縄より 菊池夏野
戦後8月15日付社説における加
害責任の論説分析（上） 根津朝彦
捕虜問題をめぐる日英「和解」
の断層（下） — 「和解成功」
言説とは何だったのか 中尾知代
【連載】歴史観×メディア＝ウ
ォッチング④『産経』の米兵犯
罪被害者批判の不当性 高嶋伸欣

第60号（2008年夏季号）【特集＝沖縄戦を考える】

「集団自決」問題を考える視点 林 博史
【資料紹介】沖縄戦における軍
官民一体化 — 軍官民合同警備
演習資料 地主園亮
沖縄県民の疎開と対馬丸撃沈事
件 吉川由紀
体験者の語りからみる座間味島
の戦争 内山 唱
沖縄戦における日本軍「慰安婦」
制度の展開（1） 古賀徳子
「生活改善」から「生活更新」
へ（上） — 1930年代の沖縄出
身者による生活改善運動 納富香織
大江・岩波裁判の一審判決報告 外間明美
韓国の「強制動員犠牲者支援法」
について 福留範昭
戦後8月15日付社説における加
害責任の論説分析（下） 根津朝彦
愛国心学習指導要領で教科書は
どうなるか 俵 義文

歴史に挑む国際連帯—日本軍性
奴隷制をめぐる議論動向 前田 朗
【資料】日本軍「慰安婦」問題
についての決議（欧州議会決議
2007年12月13日）（訳）安原桂子
【連載】歴史観×メディア＝ウ
ォッチング⑤沖繩教科書検定で
窮地の文科省と斬り込みがない
マスコミ 高嶋伸欣
拙稿「フランコと再び……」
（本誌前号）追記 飯島みどり

**第61号（2008年秋季号）【特集＝侵略戦争と弾
圧の犠牲者たち】**

こころざしつたふれし少女
— 伊藤千代子 藤田廣登
戦時下「支那渡航婦女」の記 平尾弘子
アジア太平洋戦争とハンセン病
藤野豊
【資料紹介】東京裁判と性暴力
戦争裁判と性暴力・資料編集委員会
神奈川県特高警察の暴走 荻野富士夫
「和解」論批判 — イラン・パ
ペ「橋渡しのナラティヴ」から
学ぶ 早尾貴紀
沖繩戦における日本軍「慰安婦」
制度の展開（2） 古賀徳子
「生活改善」から「生活更新」
へ — 1930年代の沖繩出身者による生活改善運動（下） 納富香織
資料紹介 大本营陸軍部「従軍
兵士ノ心得」 — 軍記・風紀の
問題を中心に 松野誠也
【連載】歴史観×メディア＝ウ
ォッチング⑥ 強硬路線の文科
省官僚らに見くびられ続ける大
手メディアの醜態 高嶋伸欣

**第62号（2008年冬季号）【特集＝沖繩戦と日
本軍「慰安婦」／日本軍「慰安婦」問題の解決
にむけて】**

一九四五年三月～八月 渡嘉敷
島で起こったこと 川田文子
「慰安婦」をみた人々 — 宮古
島「慰安婦」祈念碑の建立まで 洪 玗伸
沖繩戦における日本軍「慰安婦」
制度の展開（3） 古賀徳子
「慰安婦」問題をめぐる世界の

動き — 2007～2008年を中心に
立法による解決をめざして—成
功の条件をどう作るか 戸塚悦朗
60号をこえた『戦争責任研究』 荒井信一
太平洋戦争下の東京の障がい者
教育状況（上） — 視覚障がい
者教育を中心に 清水 寛
【連載】歴史観×メディア＝ウ
ォッチング⑦二度の「大江・岩
波裁判」敗訴判決で明確化した
検定の不当性を徹底追及しない
ジャーナリズム 高嶋伸欣
『季刊戦争責任研究』第1～第
60号 総目次・執筆者索引

**第63号（2009年春季号）【特集＝世界の植民
地問題の再検証】**

ボンデルスヴァルト空襲覚書
— 1920年代南部アフリカ植民
地の小戦争 永原陽子
イギリス植民地主義のあとさき
— 2001年ダーバン会議の教訓
エチオピアの民衆反乱に対する
イギリス軍の空爆 — 1943年テ
イグライの事例 眞城百華
義和団戦争におけるドイツ軍の
「懲罰遠征」 — 山東省高密県
の事例から 浅田進史
記憶をめぐる内戦—戦争芸術に
おける日本的責任の問題 荒木國臣
太平洋戦争下の東京の障がい者
教育の状況（下） — 視覚障が
い者教育を中心に 清水 寛
沖繩戦における日本軍「慰安婦」
制度の展開（4） 古賀徳子
【資料紹介】公文書・天皇関係
書類の廃棄と「慰安婦」隠し
— 日本軍電報の暗号解読資料 林 博史
【連載】歴史観×メディア＝ウ
ォッチング⑧ 悪化一途の『産
経』報道ぶり 高嶋伸欣

**第64号（2009年夏季号）【特集＝中国人戦争
被害者を支える取り組み】**

中国人強制連行・強制労働事件
全面解決への展望 永村誠朗
中国人戦争被害者が国と企業を
訴えた裁判の現状と支援の動き

— 運動の到達点と課題	大谷猛夫	ナウルでのハンセン病患者の集団虐殺事件(下)	林 博史
中国海南島における戦時性暴力被害と裁判及びその支援について	金子美晴	【資料紹介】独立山砲兵第三連隊「高森部隊特殊慰安業務規定」	松野誠也
日本軍「慰安婦」問題について — 「ワシントンポスト」の「事実」広告を批評する	吉見義明	【連載】歴史観×メディア＝ウオッチング④⑩ 自由社本採択の横浜市と「つくる会」の暴走を止められない公取委・文科省の責任	高嶋伸欣
ナウルでのハンセン病患者の集団虐殺事件(上)	林 博史		
南洋群島への朝鮮人の戦時労働動員 — 南洋群島経済の戦時化からみる一側面	今泉裕美子		

戦後責任との向き合い方 — 第7回「歴史認識と東アジアフォーラム」参加記	本庄十喜	第66号(2009年冬季号)【特集＝韓国併合100年 植民地支配を問い直す】	
空襲情報と疎開—膨大な犠牲者を出したのは何故か	黒田康弘	韓国併合100年をどうとらえるか	荒井信一
竹島／独島は日本の教科書にどう書かれているか	俵 義文	宗主国／植民地における「臣民」とジェンダー — 兵役義務・参政権・義務教育制	金 富子
【連載】歴史観×メディア＝ウオッチング③⑨ 『新編新しい歴史教科書』で浮上した「つくる会」・自由社と文部科学省・公正取引委員会の責任問題	高嶋伸欣	日韓国交正常化と残された課題 韓国における過去事清算と歴史論争	吉澤文寿
		【資料構成】戦争体験記・部隊史にみる日本軍「慰安婦」①	河 棕文

第65号(2009年秋季号)【特集＝自衛隊と歴史認識】

田母神問題の政治的背景 — 田母神虚言の背景と系譜	俵 義文	日本の戦争責任資料センター 日本軍「慰安婦」・性暴力に関する国会図書館文献調査の報告	
自衛隊とシベリアン・コントロール — 「田母神問題」を手がかりに	飯島滋明	日本の戦争責任資料センター研究事務局 国民基金ではなぜ解決できなかったのか — 立法問題を中心に	戸塚悦郎
女性自衛官人権裁判を通じて見えてきた自衛隊	佐藤博文	東アジアの戦後和解は何に躓いてきたか? — 「全面解決」における「謝罪」について	石田隆至・張 宏波
自衛隊改編課程における文民統制の現段階—進行する軍政・軍令の分離問題を中心に	纈纈 厚	【連載】歴史観×メディア＝ウオッチング④⑪自公政権同様に検定制度虚偽答弁をする川端文科大臣と黙認の文科省記者クラブ	高嶋伸欣
日本における戦争博物館の復活① — 戦争博物館の復活状況の概観	南 守夫	【資料紹介】15年戦争期・台湾の接客業 — 『台湾日日新報』の記事より	藤永 壮
「相手国国民の権利および訴権の消滅、停止」と国際人道法 — 「サンフランシスコ平和条約の枠組み」批判	荒井信一	【資料紹介】陸軍軍需品廠／陸軍衛生材料廠「星秘膏」	松野誠也
日本の原爆開発と植民地資源収奪	任 正嫻		
毒ガス裁判と毒ガス被害者を支える人々の系譜	長谷川順一	第67号(2010年春季号)【特集＝なぜ今、韓国併合が問題となるのか】	
		「韓国併合」100年に重ねて、なぜNHKが「坂の上の雲」なのか	中塚 明
		1910年韓日条約に関する法史学	

的再検討 金 昌祿
朝鮮・軍事占領下の性管理政策
— 外務省警察を中心に 宋 連玉
過去事問題の認識と責任論
金敏喆・(訳) 福留範昭

【資料構成】戦争体験記・部隊
史にみる日本軍「慰安婦」②

日本の戦争責任資料センター
別格官幣社・靖国神社の合祀者
詮衡(上) 秋山郁子

グアムにおけるアメリカ政府へ
の戦後補償要求 — 1970年代～
1990年代初頭のパトリオティズ
ムとの関わりを中心に 長島怜央

台湾人・朝鮮人戦没者慰霊碑に
見るアンビバレンス(上) —
ポスト植民地問題としての靖国
問題 池谷好治

【連載】日本における戦争博物
館の復活②自衛隊関係戦争博物
館問題(上) — 加害の隠蔽・
南京と重慶 南 守夫

【連載】歴史観×メディア＝ウ
オッチング④外国人参政権反対
派が露呈させた歴史教科書問題
と共通の政治的思惑 高嶋伸欣

**第68号(2010年夏季号) 【特集＝歴史の事実
と認識をめぐるたたかい】**

北海道・浅茅野飛行場強制労働
の韓国・朝鮮人骨遺骨問題 —
その民法学的課題 吉田邦彦
朝鮮人関係追悼碑の調査 竹内康人
横浜の教科書採択と問題点 佐藤満喜子

日本軍「慰安婦」問題について
の関西の取り組みと「行動する
保守」とのたたかい 井上 淳
「戦争と女性の人権博物館」建
設の現状 梁 澄子

【資料構成】戦争体験記・部隊
史にみる日本軍「慰安婦」③

日本の戦争責任資料センター
別格官幣社・靖国神社の合祀者
詮衡(下) 秋山郁子

台湾人・朝鮮人戦没者慰霊碑に
見るアンビバレンス(中) —
ポスト植民地問題としての靖国
問題 池谷好治

【資料紹介】国民を戦闘に参加
させるためのマニュアル — 大
本営陸軍部「国民抗戦必携」 林 博史
【連載】歴史観×メディア＝ウ
オッチング③ 「つくる会」自
由社版歴史教科書供給本(生徒
用)に残る多数の誤記から、関
係者の責任を衝く 高嶋伸欣

**第69号(2010年秋季号) 【特集＝日本の軍隊
と戦後処理の諸相】**

帝国軍隊と保護兵 藤野 豊
「戦後強制抑留者特別措置法」
(シベリア特措法) 制定の経過
と今後の課題 有光 健

戦争賠償請求の訴求権能喪失を
前提とする西松建設信濃川「和
解」について 康 健
全文掲載 菅直談話と国内「慰
安婦」決議 — その意義につい
て (解説) 上杉聡

「御真影」たちの沖縄戦(上)
— 御真影奉護壕からみえる戦
前教育の末路 川満 彰

【資料文献紹介】ロベルト・ゾ
マー著『強制収容所売春棟』 菅野麻衣子
台湾人・朝鮮人戦没者慰霊碑に
見るアンビバレンス(下) —
ポスト植民地問題としての靖国
問題 池谷好治

【連載】日本における戦争博物
館の復活③ 自衛隊関係戦争博
物館問題(下) — 90年代以降
の自衛隊の社会進出 南 守夫

【連載】歴史観×メディア＝ウ
オッチング④ 首相談話批判で
大口を叩く保守派論壇人の致命
的古傷を不問のマスコミ 高嶋伸欣

**第70号(2010年冬季号) 【特集＝戦争責任問
題の解決を“抑止”しているものは何か】**

戦後日本の戦争責任認識 — 占
領期を中心に 古関彰一
米軍基地と植民地主義 林 博史

日本の戦争責任「免責」の歴史
構造 — 戦後日中関係の視点か
ら 笠原十九司
【資料構成】戦争体験記・部隊

史にみる日本軍「慰安婦」④

日本の戦争責任資料センター

朝鮮人強制動員における労務
(国民) 動員計画と地方行政 庵
途由香

西松広島安野和解の現在

内田雅敏

中国人強制連行・強制労働事件
と西松建設信濃川和解について
戦争神経症と戦争責任 — 第1
次世界大戦期及び戦間期英国を
事例として

松岡 肇

高林陽展

東アジア歴史・人権・平和宣言
のために

前田 朗

「御真影」たちの沖縄戦(下)
— 御真影奉護壕からみえる戦
前教育の末路

川満 彰

【連載】歴史観×メディア＝ウ
オッチング④⑤ 市民主権者が展
開する自由社歴史教科書への追
及

高嶋伸欣

第71号(2011年春季号)【特集＝現在の紛争 と性暴力／小特集「慰安婦」問題関係資料】

旧ユーゴスラビア紛争と女性に
対する暴力 — 国際刑事法廷は
どう裁いたか

江口昌樹

ネパールの紛争と性暴力 — 沈
黙を破り正義を求める女性たち
クメール・ルージュ時代の女性
に対する暴力

田中雅子

中川香須美

グアテマラにおける紛争と性暴
力

新川志保子

東ティモールにおける紛争と性
暴力 — 責任追及と被害者の救
済

ステファニー・クープ

【資料構成】戦争体験記・部隊
史にみる日本軍「慰安婦」⑤

日本の戦争責任資料センター

中国人元「慰安婦」被害事実調
査 康健・(訳) 中国人「慰安婦」訴訟弁護団
日弁連と大韓弁護士協会の日本
軍「慰安婦」問題などについて
の宣言と提言

川上詩朗

【資料紹介】総力戦体制下の北
海道における炭鉱・鉱山「慰安
所」

金 優綺

【資料紹介】『南支南洋情報』に
みる慰安所・公娼

小西将太

東アジア歴史・人権・平和宣言
連続インタビュー講座(1)『文
明と野蛮』を越えて—日本植民
地主義を徹底解剖するために
【連載】歴史観×メディア＝ウ
オッチング④⑥ 渡部昇一氏にす
がる「つくる会」の末期症状/
藤岡信勝氏よどこへ行く?
中国人強制連行・強制労働の「和
解」案に関する考察

徐勝・前田朗

高嶋伸欣

康健・(訳) 耿春梅

第72号(2011年夏季号)【特集＝略奪文化財 返還問題】

日韓会談と文化財返還問題
朝鮮文化財略奪の舞台 — 韓
国・江華島
日本側からみた流出文化財の問
題点と解決への課題

李 洋秀

荒井信一

韓国・朝鮮文化財返還問題連絡会議

日本の侵略戦争にともなう文化
財被害とその返還について
公文書管理法の施行とアーカイ
ブス

森本和男

川村一之

米軍接收資料の返還と七三一・
細菌戦資料の行方(上)
自由社版・育鵬社版教科書の採
択阻止のために

近藤昭二

俵 義文

東アジア歴史・人権・平和宣言
連続インタビュー講座(2)
ダーバン宣言って何だ? — 植
民地主義と人種差別の歴史的責
任を問う

上村英明・前田 朗

【連載】加害の語りと戦後日本
社会①「洗脳」言説を越えて加
害認識を伝える—一戦犯作家・平
野零児の語りを通じて

石田隆至・張 宏波

【連載】日本における戦争博物
館の復活④「科学・技術」の名
による戦争博物館(上)—所沢
航空発祥記念館を中心に

南 守夫

【連載】歴史観×メディア＝ウ
オッチング④⑦ 違法性が恒常化
している「つくる会」系組織と
その支援構造の責任を衝く

高嶋伸欣

第73号(2011年秋季号)【特集＝原爆投下と 被爆者】

「原爆投下命令の責任」について

荒井信一

原爆と連合軍捕虜	福林 徹	平和への権利国連宣言をめざして — N G Oの国際連帯活動	前田 朗
3・1から3・11を考える — 原水禁署名運動から受け継ぐこと	丸浜江里子	2011年中学教科書採択の結果と私たちの課題	俵 義文
朝鮮半島出身の原爆被害者に対する日本の戦争責任	市場淳子	【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング④⑨ 2011年度教科書採択結果を総括する—その2—	高嶋伸欣
【資料紹介】原爆投下と戦争犯罪追及	林 博史	育鵬社版の逆手活用に向けて	
日本軍「慰安婦」・性暴力に関する国会図書館文献第二次調査の報告			

日本の戦争責任資料センター研究事務局

【連載】加害の語りと戦後日本社会②「棄兵」たちの戦後史(上) — 「認罪」経験の二つの捉え方	石田隆至・張宏波	第75号 (2012年春季号) 【特集＝「慰安婦」・軍隊と性暴力の最新の研究を読む (2)】	
【連載】日本における戦争博物館の復活⑤「科学・技術」の名による戦争博物館(下) — 大和ミュージアムを中心に	南 守夫	『20年目の水曜日』	川田文子
【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング④⑧ 2011年度教科書採択結果を総括する—その1—	高嶋伸欣	「植民地公娼制度」・女性の家族外就労と「慰安婦」問題 — 早川紀代『戦争・暴力と女性3 植民地と戦争責任』吉川弘文館(2005年)から	小野沢あかね
韓国シベリア朔風会から菅首相宛要望書	韓国シベリア朔風会	『ナショナリズムの狭間から』を読んで	上杉 聰
		フェミニズムの射程 — 宋連玉『脱帝国のフェミニズムを求めて 朝鮮女性と植民地主義』をよむ	早川紀代
		「極東国際軍事裁判記念館」設立について	春日恒男
		新聞の戦後責任 — 一般戦災者援護に関する論調の軌跡(上)	池谷好治
		「戦時性的強制」被害者、韓国憲法裁判所で勝訴 — 2011年8月30日決定の意義と日韓関係の未来	戸塚悦郎
		米軍接收資料の返還と七三一・細菌戦資料の行方(下)	近藤昭二
		新たな段階を迎えた細菌戦研究 — 「金子順一論文」が明かす「ホ号作戦」の実相	波多野澄雄
		【資料紹介】ダバオ、バリックパパン海軍航空基地 第二設営班慰安所の資料	藤原義一

第74号 (2011年冬季号) 【特集＝「慰安婦」・軍隊と性暴力の最新の研究を読む／原爆投下と被爆者】

『黄土の村の性暴力—大娘たちの戦争は終わらない』 — 共振する丁玲の小説と	江上幸子	【連載】加害の語りと戦後日本社会③ 「棄兵」たちの戦後史(下)「加害者」である「被害者」として	石田隆至・張宏波
在日米軍基地における「軍隊と性暴力」の共生関係 — 藤目ゆき『女性史からみた岩国米軍基地—広島湾の軍事化と性暴力』を手がかりに	平井和子	【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング⑤⑩ 2011年度教科書採択結果を総括する—その3—	高嶋伸欣
「不処罰」による国家責任を問う—日本軍「慰安婦」問題と米兵による性犯罪	宮城晴美	「横浜住民方式」の効果と八重山問題	
極私的読後感『近代日本社会と公娼制度 — 民衆史と国際関係史の視点から』	川田文子		
宋連玉・金栄編『軍隊と性暴力』をめぐる断章	吉見義明		
広島・長崎と戦争責任—原水爆禁止運動以前の動向	宇吹 暁		
長崎被爆者運動と戦災者組織	小林奈緒子		
3・11後の戦後責任論	高橋哲哉		

第76号(2012年夏季号) 【特集=靖国神社問題】

1950年代の靖国神社遺児参拝の実像を探る 松岡 勲

「大東亜聖戦大碑」と死者の尊厳 田村光彰

大詰めを迎える靖国神社合祀取り消し訴訟 菱木政晴

ビルマ・カラゴン村事件とその取り組み 岩根承成・碓井哲郎

鄭鎮星著『日本軍の性奴隷制』を読む 鄭鎮星『日本軍の性奴隷制—日本軍慰安婦問題の実像とその解決のための運動』(論創社、2008年) 藤永 壯

【参加記】日韓合同基地村のワークショップ—東アジア米軍基地問題と女性の人権シンポジウム編 李 定恩

【参加記】日韓合同基地村のワークショップ—東アジア米軍基地問題と女性の人権米軍基地ツアー編 田崎真奈美

ヨーロッパにおけるドイツの戦争犯罪・ナチ犯罪の処罰の概観(上) ノルベルト・フライ・(訳) 福永美和子

新聞の戦後責任 一般戦災者援護に関する論調の軌跡(下) 池谷好治

【連載】加害の語りと戦後日本社会④ 戦争を推進した社会の転換にむけて(上) 山陰支部における「相互援助」を中心に 石田隆至・張宏波

【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング⑤ 保守派による山川出版『詳説日本史B』批判の危険性を衝く 高嶋伸欣

第77号(2012年秋季号) 【特集=戦争とメディア】

エドワード・ハンターの平頂山事件報道とその影響 井上久士

太田川水系の水力発電所建設工事と朝鮮人 内海隆男

新聞特派員の日清戦争報道—京都『日出新聞』特派員堀江松華の記事をめぐって 松村啓一

ジェンダー視点からの基地撤廃グローバル・ネットワーク 秋林こずえ

米軍資料に見る米軍の性売買政策と性暴力 林 博史

ラウグデ事件判決① 高橋茂人

ヨーロッパにおけるドイツの戦争犯罪・ナチ犯罪の処罰の概観(下) ノルベルト・フライ・(訳) 福永美和子

慰安婦・軍隊と性暴力の最新の研究を読む 西野留美子・金子責任編集『証言未来への記憶 アジア「慰安婦」証言集—南・北・在日コリア編』I・IIを読む 木下直子

【資料構成】戦争体験記・部隊史にみる日本軍「慰安婦」第二次① 日本の戦争責任資料センター

日本軍「慰安婦」関係資料調査の成果 『資料集日本軍にみる性管理と性暴力—フィリピン』『東京裁判—性暴力関係資料』『「慰安婦」強制連行』 林 博史

【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング② 東京都・横浜市の両教育委員会による教科書採択妨害行為の違法性を衝く 高嶋伸欣

第78号(2012年冬季号) 【特集=スガモ】

スガモプリズン—占領下の「異空間」 内海愛子

スガモの平和運動と塙の外のまなざし 本庄十喜

戦犯の「戦後」—戦犯の戦争責任観・戦争観・戦後社会観 シベリア抑留の法的・道義的責任—国際法と人道の視点から 富田武

スガモプリズンにおいて「植民地責任」を問うこと—米軍管理期の朝鮮人仮出所者の記録にみる意識と行動 岡野泰平

【資料紹介】白蓮社と戦犯問題 佐治暁人

日本軍「慰安婦」問題に関する日韓交渉／仲裁を前進させるための日韓両政府に対する勧告 日本の戦争責任資料センター

【連載】加害の語りと戦後日本社会⑤ 戦争を推進した社会の転換へむけて(下)「相互援助」が可能にした「加害証言」 石田隆至・張宏波

【連載】歴史観×メディア＝ウ

オッチング⁵³ 安倍自民党による教科書制度改悪に備える— 先取りとしての横浜市教委問題の現状

高嶋伸欣

第79号 (2013年春季号) 【特集=「慰安婦」問題解決への提言／在日と戦後処理】

日本の条約義務不履行を是正する国際行動の可能性

ティナ・ドルゴボル・(訳) 岡田泰平

「慰安婦」問題の解決と国際法手続き— 地域の平和と信頼関係の醸成のために

戸塚悦朗

日本軍「慰安婦」問題、今何をなすべきか

金 昌祿

関東大震災時の朝鮮人虐殺の歴史的・思想的意味 — 日本人社会主義者や先進的労働者の植民地解放の課題意識の生誕とその挫折

山田昭次

戦後日本のなかの外国人学校 — 主に朝鮮学校をめぐる差別煽動国家における在日朝鮮人(上) — 国際人権法から見た日本

朴 三石

自治体と国籍条項
陸軍中野学校と沖縄戦(上)

前田 朗

大石文雄

【資料紹介】第三二軍(沖縄) 臨時軍法会議に関する資料

川満 彰

林 博史

【資料紹介】ラワグデ事件判決② — 判決全文

(訳) 高橋茂人

【連載】歴史観×メディア=ウォッチング⁵⁴ お気に入りです固めた安倍政権で早くも露呈した協の甘さを衝く

高嶋伸欣

第80号 (2013年夏季号) 【特集=在日と戦後処理②】

在日の戦後補償問題
日本の戦後体制と在日朝鮮人 — 参政権の「停止」と日本国憲法の制定過程をめぐる

田中 宏

差別煽動国家における在日朝鮮人(下) — 国際人権法から見た日本

水野直樹

前田 朗

日韓請求権協定・仲裁への道 — 国際法の隘路をたどる
韓民族被強制連行者は賃金をも

阿部浩己

らっていなかった
陸軍中野学校と沖縄戦(下)
【資料紹介】第三五師団司令部「営外施設規定」
【資料紹介】占領下沖縄における米兵による性犯罪
【資料紹介】戦争体験記・部隊史にみる日本軍「慰安婦」第二次②(終) 日本戦争責任資料センター
【連載】歴史観×メディア=ウォッチング⁵⁵ 橋下発言の下地を作った安倍首相の歴史認識 — 墮ちるところまで墮ちた「お気に入り政権」の倫理観
日本軍「慰安婦」問題に関する声明 日本戦争責任資料センター

守屋敬彦

川 満彰

吉見義明

林 博史

高嶋伸欣

日本戦争責任資料センター

第81号 (2013年冬季号) 2013年12月 【特集=戦争と心の傷】

沖縄戦のトラウマによるストレス症候群
沖縄戦における精神障がい者のスパイ視と虐殺
帰還兵という運動、語りとアートの旅
ビルマ戦線と龍陵の戦場 — 「六三戦場」における平田二等兵の証言記録
慰霊旅行記にみる「癡兵」の戦争体験
日本帝国陸軍と「戦争神経症」 — 戦傷病者をめぐる社会空間における「心の傷」の位置
熊本における「ハンセン病患者骨格標本」問題の検証 — ハンセン病医療と七三一部隊を結ぶ論理
歴史認識問題の新しい段階 — 吉見教授名誉毀損事件とその背景
【連載】ハルモニのアルバム1
80年の異郷につないだ春夏秋冬
【連載】歴史観×メディア=ウォッチング⁵⁶ 改めて問われる「本土」社会の沖縄認識とアジア認識再検討の必要性

蟻塚亮二

北村 毅

松村美穂

遠藤美幸

松田英里

中村江里

藤野 豊

大森典子

川田文字

高嶋伸欣

第82号 (2014年夏季号) 2014年6月 【特集=「河野談話」と日本軍資料／空襲研究の最前

線]

「河野談話」をどう見るか 日本政府による資料調査と「河野談話」	吉見義明 小林久公
【資料紹介】「慰安婦」など性的強制事件と軍による隠蔽工作 アメリカの無人機攻撃と人権理事会 空襲—ドゥランゴ、ゲルニカ、バルセロナを訪ねて スペイン内戦における空襲—植民地戦争から内戦へ／総力戦の様相と毒ガス戦の準備／爆撃の証言 日本空襲における民間人の被害について ドレスデンに見る空襲周年記念と歴史和解 「戦争体験の継承」論への一視角 —東京大空襲の事例から 桜の樹の下 — 語られなかった引揚の惨禍 ピースおおさかのリニューアルをめぐって	林 博史 荒井信一 笠原十九司 深澤安博 山辺昌彦 木戸衛一 山本唯人 平尾弘子 横山篤夫
【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング⑤⑦ 八重山教科書問題でほぼ確定した竹富町の「完全勝利」—教育への政治介入が阻止された要因を考える	高嶋伸欣

第83号 (2014年冬季号) 2014年12月 【特集＝日本軍「慰安婦」問題をどうとらえるか】

拉致事件としての「慰安婦」問題 — 「強制連行」問題から撤退した朝日新聞 河野官房長官談話 (1993年8月4日) 後に発見された日本軍「慰安婦」関連公文書等資料の提出について	上杉 聡
---	------

第12回日本軍「慰安婦」問題アジア連帯会議 米国における「慰安婦」像と日系社会 日本占領下アンダマン諸島の海軍「慰安所」に関する考察杉本雄一郎 【資料紹介】ジャワ島における日本軍「慰安婦」等強制事件 — ジョンベル憲兵隊ケース	小山エミ 林 博史
--	--------------

【資料紹介】歴史問題をめぐる日本と世界の「謝罪」 【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング⑤⑧ 歴史修正主義者の教育行政の矛盾を行動で示した下村博文・文部科学大臣 — 静かに進む「教育再生実行」プランの行き詰まり	坪川宏子 高嶋伸欣
--	--------------

第84号 (2015年夏季号) 2015年6月 【特集＝性奴隷制とは何か】

性奴隷制をめぐって — 歴史的視点から 軍事的性奴隷制と国連人権委員会 国際法における性奴隷制と「慰安婦」制度 日本の戦争責任問題とカナダのエスニック・マイノリティ運動 — 1991年から2011年までの軌跡 歪められた植民地支配責任論 — 朴裕河『帝国の慰安婦』批判 戦時性暴力被害者の解放を夢見て行動するナビ (蝶) 基金 尹美香・(訳) 挺身隊問題対策協議会	小野沢あかね 戸塚悦朗 阿部浩己 田中裕介 鄭 栄桓
--	--

【資料紹介】沖縄・宮古島における日本軍慰安所 日韓「65年体制」の克服 — 権利獲得のための長い旅程 【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング⑤⑨ 「安倍談話」の議論の陰で進む中学教科書の国家主義への汚染 日本の歴史家を支持する声明	林 博史 金 丞垠 高嶋伸欣 2015.5.4
--	----------------------------------

第85号 (2015年冬季号) 2015年12月 【特集＝日韓歴史認識の争点を検証する】

千田夏光『従軍慰安婦』は『帝国の慰安婦』においてどのように援用されたか 韓国における過去の「慰安婦」言説を探る (上) — 1945年～70年代 「慰安婦」問題と右派の動き 明治産業革命遺産と強制労働 強制動員に関する韓国大法院判	能川元一 吉方べき 山口智美 竹内康人
---	------------------------------

決の経過と現状 張完翼・(訳)野木香里
 ネット右翼と歴史修正主義 田中 彰
 『米軍慰安婦 基地村の隠された真実』(抄訳) (訳)岡本有佳・(解説)編集部
 【資料紹介】フランス人女性への監禁強かん事件——フランス・サイゴン裁判第12号事件 林 博史
 2015年中学校教科書採択について—歴史わい曲・憲法敵視の育鵬社教科書はどうなったか 俵 義文
 【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング⑥⑩ 安倍首相支持基盤の亀裂を顕在化させた「70年談話」と教科書問題——「峠を越した」政権の限界を見せた採択結果 高嶋伸欣

大阪市の2015年教科書採択と右派勢力——市教委と育鵬社、フジ住宅、日本教育再生機構による協力体制の分析(前) 上杉 聰
 2015年度の教科書検定と南京事件—実教出版『高校日本史A』の場合 小松克己
 高校歴史教科書の2015年度検定について——安倍政権による大企業と「戦争する国」の「人材」育成の教科書づくり 俵 義文
 東アジアとヨーロッパにおける「戦後70周年」 サーラ・スヴェン
 ネット右翼と保守論壇 田中 彰
 渡嘉敷と座間味の「慰安婦」——思いもかけず入手した写真 川田文子
 日本軍戦時性暴力/日本軍性奴隷制問題との出会い方—個人的な体験からゆる・ふえカフェへ 熱田敬子
 「慰安婦」問題にどう向き合うか——朴裕河の議論をめぐって 宋 連玉
 「慰安婦」問題をどう伝えるのか——ハイナンNETの活動を通して見えた課題 米田麻衣

第86号(2016年夏季号) 2016年6月 【特集＝歴史認識と人権をめぐる裁判の現状】
 「吉見事件」と日本社会の歴史認識 大森典子
 吉見裁判とその支援運動 加藤圭木
 植村裁判で見えた「慰安婦」否定派の論理破綻——間違いだらけの「捏造」を批判する 殷 勇基
 ニコンサロン「慰安婦」写真展中止訴訟から見えるもの 李 春熙
 朝鮮高校無償化裁判の意義と現状 佐野通夫
 国連人権機関による日韓政府「合意」の評価—女性差別撤廃委員会を中心に 渡辺美奈
 韓国における過去の「慰安婦」言説を探る(下)——1980年代 吉方べき
 【文献紹介】フランス軍専用売春宿BMC 木村嘉代子
 【資料紹介】林部隊法務部「対住民犯ニ付テ(口演要旨)」 松野誠也
 【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング⑥⑪ 『日本会議の研究』が暴いた明治憲法体制復元の動き—安倍政権の「改憲」を通過点と位置付けているカルト勢力の存在に立ち向かう 高嶋伸欣

【連載】歴史観×メディア＝ウォッチング⑥⑫ 歴史修正主義の政治的な攻勢を次々と阻止している各地の市民運動に学ぶ 高嶋伸欣
 【資料紹介】野戦重砲兵第14連隊の「特種慰安所仮規定」と「特種慰安所取締規定」 松野誠也
 【資料紹介】核とミサイルに関する新妻清一関連資料(1) 軍事史研究グループ(松村高夫・兒嶋俊郎)

第88号(2017年夏季号) 2017年6月 【特集＝日本軍「慰安婦」・韓国米軍基地村への取り組み】
 日韓合意から一年 その問題点と撤回のための取り組み 梁 澄子
 吉見名誉棄損裁判高裁判決批判 川上詩朗
 吉見裁判支援運動とこれからの課題 高田雅士
 今、「慰安婦」問題と関わること—自分のできること・やりたいたいことを見つける旅 永山聡子
 基地村の鞏固化過程(1950～60)に関する研究——国家、ジ

第87号(2016年冬季号) 2016年12月 【特集＝歴史認識をめぐる闘い/「慰安婦」問題へのまなざし】

エンダー化された民族主義、女性
性の抵抗(上) 李娜榮・(訳) 古橋綾

「韓国内基地村米軍慰安婦 国家損害賠償請求訴訟」一審判決
四川省乐山空襲についての考察

古橋 綾

内田知行

憲兵の戦争犯罪と中国BC級戦
犯裁判(上) 伊香俊哉

伊香俊哉

京都市・宇治市・舞鶴市の靖国
神社遺児参拝—1950年代における
靖国神社遺児参拝の実像を探
る

松岡 勤

大阪市の2015年教科書採択と右
派勢力—市教委と育鵬社、フジ
住宅、日本教育再生機構による
協力関係の分析(後)

上杉 聡

【資料紹介】核とミサイルに関
する新妻清一関連資料(2)

軍事史研究グループ(松村高夫・兒嶋俊郎)

【資料紹介】「毒瓦斯ニ関スル思
想統一ニ関スル件」

松野誠也

第89号(2017年冬季号) 2017年12月 【特集 =軍隊と性】

韓国から世界へと広がる「平和
の少女像」—韓国の運動とカナ
ダ・トロントにおける取り組み
を中心に

田部井杏佳

【文献紹介】フランス軍公認売
春BMCをめぐる研究について
(上)

木村嘉代子

基地村の鞏固化過程(1950~
60)に関する研究—国家、ジェ
ンダー化された民族主義、女性
の抵抗(下) 李娜榮・(訳) 古橋綾

李娜榮・(訳) 古橋綾

【資料紹介】「鎮江慰安所規定」
歴史学の楽しみ—中央大学に
おける最終講義

松野誠也

吉見義明

長崎県炭鉱への朝鮮人強制連行
憲兵の戦争犯罪と中国BC級戦
犯裁判(下)

竹内康人

伊香俊哉

【資料紹介】核とミサイルに関
する新妻清一関連資料(3)

軍事史研究グループ(松村高夫・兒嶋俊郎)

【連載】歴史観×メディア=ウ
オッチング⑥③ 安倍政権が繰り返
す歴史認識とそれを是正出来
ないメディアの不勉強

松村高夫・兒嶋俊郎

高嶋伸欣

第90号(2018年夏季号) 2018年6月 【特集= 植民地・軍事支配と性】

日本国内の朝鮮料理店と産業慰
安所 樋口雄一

近代日本漁民の朝鮮出漁と日本
人接客業の朝鮮浸透

神谷丹路

奄美諸島の日本軍「慰安婦」

菊池保夫

【資料紹介】上海海軍特別陸戦
隊『上海ニ於ケル外出員心得』

松野誠也

環太平洋社会運動の可能性—
サンフランシスコ『慰安婦』メ
モリアルが投げかけるもの

河 庚希

【日韓共同ワークショップ】日
韓米軍基地と性売買—歴史と政
策part1

飯倉江里衣

【日韓共同ワークショップ】日
韓米軍基地と性売買—歴史と
政策Part2

南 衣映

【日韓共同基地村現地調査】「韓
国安亭里基地村—基地村と女
性たちの過去・現在」

井上愛美

【文献紹介】フランス軍公認売
春宿BMCをめぐる研究について
(下)

木村嘉代子

関東大震災時の朝鮮人迫害・虐
殺事件とこれをめぐる現代の思
想状況

山田昭次

法と正義の狭間に立つアウシュ
ヴィッツ裁判

本田 稔

【資料紹介】核とミサイルに関
する新妻清一関連資料(4)

軍事史研究グループ(松村高夫・兒嶋俊郎)

【連載】歴史観×メディア=ウ
オッチング⑥④ 東アジア情勢激
変後に予想される歴史修正主義
の暴走=虚偽・歪曲情報を流布
する動きを暴く

高嶋伸欣

第91号(2018年冬季号) 2018年12月 【特集 =戦犯裁判研究の新展開】

日本軍慰安所に関する発掘資料
を読み解く—『金華鶏林会会
則及び名簿』を中心に

蘇智良・陳麗菲・(訳) 吉田陽介

『日本侵華戦犯供述選編』の概
要—全120巻の「摘要」に示
された戦争犯罪

伊香俊哉

スガモ・プリズン 戦犯たちの

「自治」と「自主活動」	内海愛子
ニュルンベルク裁判研究の現状 と今後の課題 — 「ニュルンベ ルク継続裁判」とその解明を中 心に —	芝 健介
戦犯裁判と沖縄出身者 — 大日 本帝国の戦争のなかの沖縄	林 博史
【エッセイ】 裴奉奇さんと宋神 道さん	川田文子
【史料紹介】 関東軍防疫給水部・ 関東軍軍馬防疫廠における部隊 人数の変遷について	松野誠也
「重慶大爆撃」裁判闘争の報告 — 人間の尊厳の回復を求める 闘い	一瀬敬一郎
【連載】 歴史観×メディア＝ウ オッチング⑤	高嶋伸欣
目次＋執筆者索引（1-91号分）	総目次